



# Undergraduate Certificate in European Union Studies ★

## 2011年度 シラバス - 学部 -



**【注意】**

EU 科目の開講状況やシラバスの内容は変更になる場合があります。  
各大学で履修手続きは異なりますので、注意して下さい。

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

(a) Introductory Module/導入科目群.....	1
(b) History Module/歴史科目群.....	10
(c) Law and Politics Module/法律・政治科目群.....	16
(d) Economics Module/経済科目群.....	30
(e) Science and Technology Module/科学・技術科目群.....	38
(f) Culture and Society Module/文化・社会科目群.....	43
(g) Incoming Visitors Programme/招聘講師による集中講義.....	47

(a) Introductory Module/導入科目群

EU 科目名 : European Political History / 開講大学での科目名 : 西洋政治史			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学法学部	安井 宏樹	4 単位	前期
<p><b>授業のテーマと目標</b> ヨーロッパ諸国の政治がいかなる歴史的展開を経て形成されてきたのかについて、歴史学や政治学の分析枠組みを紹介しながら説明します。この授業を通じて、(1) ヨーロッパ諸国の政治の基本的な特徴について説明できるようになり、(2) 政治学の基本的な分析枠組みについて理解し、それを具体的な事例に適用できるようになることを目指します。[EUIJ 科目]</p> <p><b>授業の概要と計画</b> 英・仏・独・伊をはじめ、オランダなど北西欧諸国、スウェーデンなど北欧諸国、スペインなど南欧諸国の政治史的展開について説明していきます。詳細については開講時に授業進行予定表を配布します。</p> <p><b>成績評価方法と基準</b> 原則として期末試験によって評価します。ただし、期末試験の成績が特定の水準に達していない者に対しては、学期途中で課す小レポートが事前に提出されていた場合に限り、当該特定水準を上限として小レポートの点数を加算します。</p> <p><b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b> 高校の世界史で教わる程度の知識を前提として授業を行います。 また、この授業は、EUIJ 関西が実施している「EU 研究修士証プログラム」の対象科目です。[EUIJ 科目]</p> <p><b>オフィスアワー・連絡先</b> 開講時にお知らせします。</p> <p><b>学生へのメッセージ</b> 最近の日本で「海外」が注目される際には、米国や中国への関心が中心になりがちで、欧州は時代遅れの脇役(あるいは、変わった取り組みをしている特殊な事例)扱われることがしばしばです。しかし、今日の世界秩序の基調となっている「西洋文明」(the West)を育ててきたのは欧州であり、近代日本の法制度・政治制度の源流も欧州にあります。ですから、日本を含む現代先進社会の基底を学ぶ上で欧州は重要な存在と言えます。さらに、多様な現代先進社会が欧州には存在しており、様々な社会問題への対応例や社会実験の宝庫でもあります。そうした欧州諸国の政治を形作ってきた政治発展の歴史を(その失敗や欠点も含めて)学ぶことによって、複眼的な社会の見方を培って欲しいと思います。</p> <p><b>教科書</b> 特定の教科書は指定しません。</p> <p><b>参考書・参考資料等</b> 一般的な参考文献は以下の通りです。また、授業内容に応じた参考文献をその都度紹介していきます。</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

ヨーロッパ政治ハンドブック / 馬場康雄・平島健司（編）：東京大学出版会，2010 年，ISBN:978-4130322140  
 ヨーロッパのデモクラシー / 網谷龍介・伊藤武・成廣孝（編）：ナカニシヤ出版，2009 年，ISBN:978-4779503368  
 ヨーロッパ政治史（改訂新版） / 平島健司・飯田芳弘：放送大学教育振興会，2010 年，ISBN:978-4595312045  
**授業における使用言語**  
 日本語  
**キーワード**  
 ヨーロッパ 政治史 政治学

EU 科目名：European Economy / 開講大学での科目名：ヨーロッパ経済論			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学経済学部	久保 広正	2 単位	前期
<p><b>授業のテーマと目標</b>            1950 年代に始まった EU（欧州連合）統合は、2002 年に通貨統合を完成させた。また、2004 年には中東欧を中心とする 10 ヶ国が、加えて 2007 年には新たな 2 ヶ国が加盟を果たし、EU は 27 ヶ国からなる体制を形成した。こうした「深化」と「拡大」を続けた結果、EU は国際経済・国際金融、さらには国際政治面で一段とその重要性を高めてきた。このように順調に進展してきたかみえた EU 経済であるが、2008 年夏以降、ユーロ危機、経済金融危機に見舞われている。本講義の目標は、上記のような EU の動きを分析することにより、それらの内容を理解し、EU の諸政策が国際経済、あるいは日本経済に及ぼす影響を理解することにある。（EUIJ 科目）</p> <p><b>授業の概要と計画</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヨーロッパ概観</li> <li>2. EU 統合の歴史</li> <li>3. EU 諸機関の役割と意思決定プロセス</li> <li>4. 通貨統合とその影響</li> <li>5. EU 共通政策               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 産業競争力政策</li> <li>② 共通通商政策</li> <li>③ 社会労働政策</li> </ol> </li> <li>6. EU 拡大と EU 改革</li> <li>7. ヨーロッパ経済の将来</li> </ol> <p><b>成績評価方法と基準</b>            期末試験で評価する。</p> <p><b>履修上の注意（関連科目情報等を含む）</b>            ダイナミックに変化しつつあるヨーロッパ経済について分析するため、日頃から新聞・雑誌などの国際経済欄を丁寧に読んでおくことが望ましい。なお、EU インスティテュート関西の修了証取得を目指す学生は、ぜひ受講してもらいたい。            本講義を理解するためには、他の EUIJ 科目も併せ受講することが望ましい。</p> <p><b>オフィスアワー・連絡先</b>            随時受け付けるが事前にアポイントを取得してもらいたい。</p> <p><b>学生へのメッセージ</b>            ヨーロッパのみならず、国際経済の動きが実感できる講義としたい。また、板書を分りやすいものとするよう一層努力したい。</p> <p><b>教科書</b>            現代ヨーロッパ経済論 / 田中・久保編著：ミネルヴァ書房，近刊，ISBN：            EU の知識第 15 版 / 藤井良広：，2010，ISBN:978-4-532-11224-0            欧州経済の基礎知識 / 田中・秋山編著：JETRO，2010，ISBN:978-4-8224-1094-0</p> <p><b>参考書・参考資料等</b>            現代ヨーロッパ経済 / 田中・長部・久保・岩田編著：有斐閣，2006，ISBN:4-641-12286-5            欧州統合論 / 久保広正：勁草書房，2003，ISBN:4-326-50215-0</p> <p><b>授業における使用言語</b>            日本語  <b>キーワード</b>            EU 市場統合 通貨統合 拡大 欧州中央銀行</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

EU 科目名 : Economic Policy in the EU / 開講大学での科目名 : コース共通特論 A (107)			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学商学部	J. F. Rawlinson	4 単位	秋学期
<p><b>副題</b> EU の経済政策 : EU 政策の実践例 (競争・地域開発・農業・通貨政策)</p> <p><b>講義目的</b> ヨーロッパの経済・政治的統合は、1952年に「石炭・鉄鋼共同体」を出発点として、1957年に EEC (欧州経済共同体) の成立を経て、1990年代以降、「マーストリヒト条約」の締結語、EU (欧州連合) として発展・深化を遂げています。また2004年と2007年に、東欧諸国を中心とする12ヶ国が加わり、27ヶ国体制へと拡大し、2011年現在17ヶ国が単一通貨ユーロを利用するようになりました。2009年12月1日に発効したリスボン条約により、EUはもっと深く統合し、外交、司法と政治協力を深化させ、組織の運営の効率性とあらゆる共同政策の分野での行為能力を高めることだけではなく、EU自体の「大統領」と「外務大臣」の誕生により本格的なグローバル・プレーヤーとなる見込みです。 本講義は、ヨーロッパの統合過程と EU の共同政策実践を紹介し、現在のヨーロッパ経済の状況と今後の課題について分かりやすく講義を行います。教員は EU 委員会の部局で 公務員として長年働いて来た者です。</p> <p><b>各回ごとの授業内容</b></p> <p>I. 欧州連合の基本 (復習)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. EU の統合深化と拡大</li> <li>2. EU の制度と運営</li> </ol> <p>II. 競争政策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. カルテル</li> <li>4. 他の 共同行為</li> <li>5. 市場支配的地位の濫用</li> <li>6. 企業合併</li> <li>7. 補助金の管理 (1)</li> <li>8. 補助金の管理 (2)</li> </ol> <p>III. 地域開発政策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 予算とその配分</li> <li>10. 利用規則 (EU 委員会と各加盟国の権力)</li> <li>11. 政策の効果 (アイルランドのサクセスストーリー)</li> <li>12. 日本との比較</li> <li>13. EU 支出の監査 (会計検査員)</li> <li>14. 2014-2020 期間に政策の変更提案</li> </ol> <p>III. 農業政策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>15. 根本理由</li> <li>16. 元政策の構成要素</li> <li>17. これまでの改革</li> <li>18. 現在の改革提案</li> <li>19. 日本との比較</li> <li>20. 発展途上国に与える影響</li> </ol> <p>IV. 通貨政策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>21. 経済・通貨同盟、ヨーロッパ通貨制度</li> <li>22. ユーロの導入</li> <li>23. 世界金融危機とその原因 (2008年)</li> <li>24. ユーロッパ諸国の財政問題とユーロ危機</li> <li>25. ユーロ危機とその対策</li> <li>26. ユーロ危機の結論?</li> <li>27. 経済・財政統合深化の必要性</li> </ol> <p>V. まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>28. 状況に対応し、政策の連続進化</li> <li>29. 日本と EU の共通点</li> </ol> <p><b>授業方法</b> パワーポイント・プレゼンテーション</p> <p><b>教科書</b> 辰巳浅嗣『EU-欧州統合の現在』(2009年)</p> <p><b>参考文献</b> 1. 清水嘉治、石井伸一 『新 EU 論-欧州社会経済の発展と展望』(2008年)</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

<p>2. 藤井良広、『EUの知識』（2010年） 3. 田中友義、『EU経済論-統合・深化・拡大』（2009年）</p> <p><b>成績評価方法・基準</b> 定期試験(Final examination)</p> <p><b>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連</b> 経済学部開講科目：経済事情C（2011）、経済事情D（2011）</p>
--

<p>EU 科目名 : Economic Policy in the EU A 開講大学での科目名 : 経済事情C（2011）（EUの経済政策A）</p>
---

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学経済学部	J. F. Rawlinson	2 単位	春学期

<p><b>講義目的</b> ヨーロッパの経済・政治的統合は、1952年に「石炭・鉄鋼共同体」を出発点として、1957年にEEC（欧州経済共同体）の成立を経て、1990年代以降、「マーストリヒト条約」の締結語、EU（欧州連合）として発展・深化を遂げています。また2004年と2007年に、東欧諸国を中心とする12ヶ国が加わり、27ヶ国体制へと拡大し、2011年現在17ヶ国が単一通貨ユーロを利用するようになりました。2009年12月1日に発効したリスボン条約により、EUはもっと深く統合し、外交、司法と政治協力を深化させ、組織の運営の効率性とあらゆる共同政策の分野での行為能力を高めることだけではなく、EU自体の「大統領」と「外務大臣」の誕生により本格的なグローバル・プレーヤーとなる見込みです。 本講義は、ヨーロッパの統合過程とEUの共同政策実践を紹介し、現在のヨーロッパ経済の状況と今後の課題について分かりやすく講義を行います。教員はEU委員会の部局で公務員として長年働いて来た者です。</p> <p><b>各回ごとの授業内容</b> 現在EUの発展事情 1. 個人・会社・加盟国政府から見た現在のEU 2. EU経済統合の現事情 3. 政策分野ごとの統合事情 EUの発展歴史 4. 欧州の共同発展（欧州石炭鉄鋼共同体、欧州経済共同体） 5. 欧州の共同発展（欧州連合） 6. 欧州の共同発展（経済・通貨同盟、単一通貨ユーロ） 欧州連合の機能と日常の運営 7. 欧州連合の予算 8. 欧州委員会 9. 欧州委員会 10. 欧州理事会 11. 欧州議会 12. 欧州司法裁判所 13. 欧州会計検査院 14. その他の機関 EUの現在事情・歴史・日常運営 まとめ 15. まとめ</p> <p><b>教科書</b> 辰巳浅嗣 「EU-欧州統合の現在」2009年、ISBN978-4-422-30038-2</p> <p><b>参考文献</b> 清水嘉治, 石井伸一「新EU論 欧州社会経済の発展と展望」2008年 藤井良広, 「EUの知識」2010年 田中友義, 「EU経済論 統合 深化 拡大」2009年</p> <p><b>成績評価方法・基準</b> 定期試験(Final examination)</p> <p><b>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連</b> 予習と復習を欠かさないこと</p>
--

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

EU 科目名 : EU and Contemporary European Economics A(2008)			
開講大学での科目名 : 経済事情 A (2008) (EU と現代ヨーロッパ経済 A(2008))			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学商学部	吉川 真裕	2 単位	春学期
<p><b>副題</b> EU と現代ヨーロッパ経済</p> <p><b>講義目的</b> 主権国家が自国通貨を放棄して新たな共通通貨を採用するという通貨統合がヨーロッパでは現実のものとなった。この授業では通貨統合に至るヨーロッパの経済統合の取り組みを振り返りながら、受講者が EU を中心としたヨーロッパ経済全体を把握できるようになることを目標とする。</p> <p><b>各回ごとの授業内容</b> 1. 世界経済・国際通貨体制と EU 2. EU 統合の歴史的発展 3. 関税同盟と単一市場 4~5. EU の共通政策と EU 財政 6~7. 通貨協力から通貨統合へ 8~9. 通貨統合の現実 10~11. EU 経済と産業 12~13. EU 経済と構造的不均衡 14. 展望</p> <p><b>授業方法</b> 板書を多用する講義形式。ビデオ視聴も採り入れる。質問を歓迎し、授業中に答えていきたい。</p> <p><b>教科書</b> 田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治『現代ヨーロッパ経済(新版)』(有斐閣、2006)。</p> <p><b>参考文献</b> 高屋定美(編)『EU 経済』(ミネルヴァ書房、2010)。 村上直久(編)『EU 情報事典』(大修館書店、2009)。 田中晋・秋山士郎『欧州経済の基礎知識』(ジェトロ、2010)。 大前研一『衝撃! EU パワー』(朝日新聞出版、2009)。 田中友義『EU 経済論—統合・深化・拡大』(中央公論社、2009)。 EU インスティテュート関西『EU の大研究』(PHP 研究所、2007)。 佐藤幸男・高橋和・臼井陽一郎・浪岡新太郎『拡大 EU 辞典』(小学館、2006)。 田中友義・久保広正『ヨーロッパ経済論』(ミネルヴァ書房、2004)。 田中素香『ユーロ 危機の中の統一通貨』(岩波書店、2010)。 白井さゆり『欧州迷走』(日本経済新聞社、2009)。 ジャック ペルクマンズ『EU 経済統合—深化と拡大の総合分析』(文真堂、2004)。 小川英治(編)『EU スタディーズ(2) 経済統合』(頸草書房、2007)。 田中素香『拡大するユーロ経済圏』(日本経済新聞社、2007)。 松浦一悦『EU 通貨統合とユーロ政策』(ミネルヴァ書房、2009)。 ハンス・ティートマイヤー『ユーロへの挑戦』(京都大学学術出版会、2007)。 坂田豊光『欧州通貨統合の行方』(中央公論社、2005)。 田中素香『ユーロ その衝撃とゆくえ』(岩波書店、2002)。</p> <p><b>成績評価方法・基準</b> 定期試験(Final examination) 原則として定期試験によって評価する。試験は基本的な事柄の理解を問う問題群(50 点)とテーマを定めて解答用紙裏面全体で答えてもらう論述問題(50 点)を予定している。</p> <p><b>学生による授業評価の方法</b> 学期末のアンケート</p> <p><b>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連</b> 関心を持ったテーマについては自ら調べてみることをお勧めする(試験の際の論述問題に役立つはずである)。なお、経済事情 B(2008)ではヨーロッパ主要国の経済を国ごとに紹介するので、ヨーロッパ経済全体を扱うこの科目と合わせて受講すれば、ヨーロッパ経済に関する理解がより深まるものと考えられる。</p> <p><b>キーワード</b> EU/EMU/ユーロ/安定成長協定/EMS/スネーク/構造的不均衡/EEC/共通農業政策/関税同盟</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

EU 科目名 : Christianity and Art History A / 開講大学での科目名 : キリスト教と美術 A			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学神学部	山田 香里	2 単位	春学期
<p><b>副題</b> 中世の教会堂建築と美術</p> <p><b>講義目的</b> 本講義では、中世西ヨーロッパ世界での教会堂建築の発展とそれに付随した美術（彫刻、壁画など）について学ぶ。受講生は本講義を通じて、個々の美術作品だけでなく、中世西欧世界の教会の歴史、思想、典礼などについて総合的に学び、知識を得ることができる。</p> <p><b>各回ごとの授業内容</b> (1) 教会堂とそれを飾る美術について（導入） (2) カロリング朝の教会堂建築とその装飾 (3) オットー朝の教会堂建築とその装飾 (4) ロマネスクの教会堂とその装飾 (4) -1 サンチャゴ巡礼路と教会堂（2 回） (4) -2 イタリアにおけるロマネスク建築（2 回） (4) -3 ロマネスクの柱頭彫刻（2 回） (4) -4 ロマネスクの教会堂を飾る壁画（2 回）</p> <p>また、受講生の人数にもよるが、受講生にもロマネスクの教会堂について調べて授業内で発表をしてもらう予定にしている。この発表をもとにレポートを作成してもらう。</p> <p><b>授業方法</b> スライドを多用した講義形式。学期内に各自 1 回の発表を行ってもらう予定である</p> <p><b>参考文献</b> 『世界美術大全集（ロマネスク）』</p> <p><b>成績評価方法・基準</b> 定期試験に代わるレポート(Term paper to replace the final examination)</p> <p><b>学生による授業評価の方法</b> 授業中に行う</p> <p><b>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連</b> キリスト教と文化概論を既に履修していることが望ましい。</p> <p><b>キーワード</b> ロマネスク 教会堂 壁画</p>			

EU 科目名 : European Tradition and Christianity B			
開講大学での科目名 : ヨーロッパ文化史とキリスト教 B			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学神学部	山田 香里	2 単位	秋学期
<p><b>副題</b> キリスト教都市ローマの発展</p> <p><b>講義目的</b> キリスト教地誌学の基礎をローマという都市の発展を通じて学ぶ。受講者は授業を通じて、地誌学の手法を学び、キリスト教の発展が都市をどのように変化させたのか、具体的に知ることができる。</p> <p><b>各回ごとの授業内容</b> (1) キリスト教と考古学（導入） (2) キリスト教地誌学について (3) 都市ローマの誕生と発展 (2) 紀元前後のローマ（3 回） (3) 教会の平和と教会堂建築（3 回） (4) 教皇による都市の建設 (5) ヴァチカンとサン・ピエトロ教会堂の発展（3 回）</p> <p>この他、学生による発表を受講生の人数に合わせて、2,3 回程度の授業の時間を割いて行う。</p> <p><b>授業方法</b> 講義 受講生の人数と希望にあわせて、受講生も授業中に 1 回程度の発表を行う。この発表をもとにレポート</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

を作成してもらうが、これが定期試験に代わるレポート、となる。

**教科書**

特になし

**参考文献**

授業中適宜指示する

**成績評価方法・基準**

定期試験に代わるレポート(Term paper to replace the final examination)

発表 (30 パーセント) リポート (60 パーセント) 出席 (10 パーセント)

**準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連**

キリスト教と文化概論を既に履修していることが望ましい

**キーワード**

古代ローマ

EU 科目名 : New Challenge of Expanding and Deepening Europe

開講大学での科目名 : 総合コース510 拡大・深化する欧州の新たな挑戦「危機を超えて進む EU の戦略」

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学全学科目 (教務部教務課)	井口 泰	2 単位	秋学期

**副題**

拡大・深化する欧州の新たな挑戦－危機を超えて進む EU の戦略－

**講義目的**

欧州連合は、2008 年秋の世界経済危機の影響から脱出できず、ギリシャの財政危機をきっかけに 2010 年には通貨ユーロの信認が低下し、ユーロ圏の失業率も 10%に達した。改革条約は 2009 年 12 月に発効し、加盟国の増加への備えはできたものの、急速に域内の異質性や経済格差が高まりつつある。経済統合を進めつつも、社会的側面を重視する欧州の価値感を共有してきたが、理論及び実務の両面で経済統合の弱点が浮き彫りになり、ガバナンス強化又は改革を必要としている。拡大欧州の境界はますます外へと広がり、ロシアや C I S 諸国、トルコや中央アジア諸国、北アフリカ諸国などとの政治・経済的摩擦への対処は、さらに重要な課題となっている。

本講は、EU Institute 関西の中核的講義を目指し、域内での異質性と域外との摩擦を高める欧州連合が、歴史の浅い東アジアの経済統合と共通性を増している点にも着目しつつ、多様な危機を克服するため、如何なる戦略を進めるべきかを、最新の調査・研究をもとに明らかにすることを目的とする。具体的には、1) 経済危機の EU に与えた広範な影響と産業の盛衰、2) 西欧企業のガバナンスの挑戦、3) 市場経済に移行した中東欧諸国の試練と展望、4) ロシアとの政治・経済及び軍事的緊張、5) トルコ加盟問題と中央アジア、6) 停滞するアフリカ経済と EU の移民政策の改革などを、政治・経済・経営の側面のみならず、社会・文化・歴史的な側面のバランスを取りながら論じていく。

**各回ごとの授業内容**

- 9 月 30 日 イントロダクションー欧州における経済統合の試練とその社会的側面 担当：井口・全講師出席  
 10 月 7 日 西欧企業のガバナンスードイツを中心にー (その 1) 担当：海道  
 14 日 西欧企業のガバナンスードイツを中心にー (その 2) 担当：海道  
 21 日 西欧企業のガバナンスードイツを中心にー (その 3) 担当：海道  
 28 日 中東欧経済の現段階とその展望 (その 1) 担当：峯本  
 11 月 11 日 中東欧経済の現段階とその展望 (その 2) 担当：峯本  
 18 日 中東欧経済の現段階とその展望 (その 3) 担当：峯本  
 25 日 EU とロシアの間の摩擦と協調 担当：井口  
 12 月 2 日 トルコ加盟問題と中央アジア (その 1) 担当：藤井  
 9 日 トルコ加盟問題と中央アジア (その 2) 担当：藤井  
 16 日 トルコ加盟問題と中央アジア (その 3) 担当：藤井  
 1 月 6 日 EU とアフリカの関係、人の移動及び社会的統合の課題 担当：井口  
 13 日 まとめ 担当：井口・全講師出席

**授業方法**

欧州連合の現状や課題を理解しやすいよう可能な限りスライドを活用し、写真や地図、グラフィックなどを多用して授業を行う。その際、政治、経済及び経営の側面と、社会、文化及び歴史の側面のバランスを考慮する。また、講師相互の連携が図り、授業内容の面でも連続性が維持されるように講義を進める。

**教科書**

講義全体を概観できる教科書は存在しないので、最新情報や文献などを参照したスライド資料などを配布する

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

とともに、授業連絡ボードにて掲示する。

**参考文献**

欧州連合に関する全体的な参考図書と、個別分野ごとの参考図書について、授業中及び授業連絡ボードのなかに掲示する。

**成績評価方法・基準**

定期試験 (Final examination) / 平常レポート (Ordinary paper)

本授業では、例年、学生の授業への積極的参加を重視しており、関係文献の一部を、学内 LAN (LUNA) に掲示し、これを活用して宿題の提出を求めていく。したがって、成績評価においては、各講師に期末試験に 15 点、平常点 (宿題の提出を含む) に 10 点を配分し、これらを合計して総合評価とする。原則として、宿題は教務課に講師ごとの期限内に提出することとするが、就職活動中の 4 年生や病欠者などに配慮し、例外的に、授業代表者あてにメール添付で提出できるようにする。

**学生による授業評価の方法**

授業評価は、次の 2 つの方法で行う。第 1 に、各講師は出席する学生に授業終了時に意見票への記入と提出を求め、学期中に改善できる点は講師間で共有して出来るものから改善する。第 2 に、最終講義において、学期全体についての学生の感想、意見及び評価を求めるものとする。これは、次年度以降も実施する場合には貴重な資料となる。なお、学生からの授業評価や指摘を受けた改善点についても、学内 LAN に掲示するなど、講師と学生間の双方向の意思疎通を重視する。

**準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連**

授業連絡ボードに掲示する文献やスライドを参照されたい。

**キーワード**

G A T T 24 条 (経済統合)、ローマ条約、欧州経済共同体、モノ、サービス、カネ、ヒトの域内自由移動、共同決定、社会的市場経済、トルコの EC 加盟申請、サッチャリズム、単一欧州議定書、ドイツ統一、マーストリヒト条約、欧州連合 (EU)、社会的側面、ソ連崩壊、C I S 諸国、通貨統合、単一通貨ユーロ、欧州会社法、コーポレートガバナンス、移行経済、EU の東方拡大、ニース条約、改革条約、リスボン戦略、共通移民政策、社会的統合、産油国ロシア、エネルギー政策、グルジア紛争、ベルリン会議、飢餓の大陸、環境政策、N A T O 加盟

EU 科目名 : European Political History / 開講大学での科目名 : ヨーロッパ政治史

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
大阪大学法学部	小野 清美	4 単位	2 学期

**授業の目的**

授業の到達目標及びテーマ

授業の主題: ヨーロッパ近現代政治史—ドイツを中心に—

到達目標: ドイツとヨーロッパの 19 世紀と 20 世紀前半の政治史を学ぶことをつうじて、ナショナリズムと国民国家、階級闘争、帝国主義、科学技術の発展とテクノクラシー、大衆民主主義と福祉国家、そして様々な近代批判など「近代」の諸問題を理解すること。また、そうした諸問題の絡み合いの中にあるナチズムを、二重の意味でのナチズム特殊論—「西欧近代」を基準とした「ドイツ特有の道」論とドイツ史におけるナチ時代特殊性論—をこえて、欧米に共通の同時代的現象・趨勢がドイツにおける所与の諸条件のもとでどう現れたのかという観点から、近現代史のコンテクストのなかに位置づけて理解すること。

**履修条件・受講条件**

特になし

**講義内容**

授業の概要

19、20 世紀のヨーロッパ政治史を、ドイツを中心に、ヨーロッパ諸国の相互影響関係、全ヨーロッパ的な時代コンテクストを押さえながら講義する。近代ナショナリズムの成立と国民国家の形成、帝国主義とナショナリズムの変容、第一次大戦と戦間期ヨーロッパの状況、大衆民主主義と議会制デモクラシーの危機、ファシズムの時代、過去の克服とヨーロッパへの道などが主な内容となる。

授業計画

第 1 回: ドイツ近現代政治史へのパースペクティブ

第 2 回: プロイセンと「ドイツ問題」

第 3 回: フランス革命とナショナリズムの覚醒—ドイツ・ナショナリズムの特質—

第 4 回: 19 世紀初頭の改革

第 5 回: ウィーン体制とドイツ連邦、三月前期のドイツ

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

- 第6回：三月革命――そのヨーロッパ的コンテクスト――  
 第7回：三月革命――その展開と帰結――  
 第8回：三月革命後のヨーロッパ  
 第9回：プロイセン憲法紛争とビスマルク  
 第10回：「ドイツ問題」をめぐる諸構想  
 第11回：ビスマルクによるドイツ統一  
 第12回：プロイセン・ヘゲモニーの条件と小ドイツ・ナショナリズム  
 第13回：「小ドイツ」統一と自由主義の問題  
 第14回：第二帝政の構造と性格(1)政治体制・憲法制度  
 第15回：第二帝政の構造と性格(2)ビスマルクの政策転換と政治的再編成  
 第16回：第二帝政の構造と性格(3)ビスマルクの失脚とヴィルヘルム時代  
 第17回：帝国主義とナショナリズムの変容  
 第18回：世紀末フェルキッシュ運動、各種改革運動、ナチズムとの関係  
 第19回：第一次大戦とドイツ革命  
 第20回：ヴェルサイユ体制と戦後のヨーロッパ世界、「ドイツ問題」  
 第21回：ワイマル共和国――戦後危機と相対的安定期、押し寄せるアメリカニズムと合理化運動――  
 第22回：大統領政府体制――ナチ権力掌握阻止の失敗――  
 第23回：ワイマル期の諸問題(1)社会国家とその危機、議会制民主主義の自滅  
 第24回：ワイマル期の諸問題(2)保守革命の時代批判と政治論、保守革命とナチズム  
 第25回：ナチ・レジームの展開――独裁体制の確立、経済復興、人種差別と「民族共同体」の建設  
 第26回：ナチズムの対外政策――「ドイツ問題」の暴力的解決とヨーロッパ「新秩序」  
 第27回：ナチズムとテクノクラート  
 第28回：ナチズムと自然保護  
 第29回：第二次大戦後の世界への展望(1)第二次大戦と戦後のヨーロッパ、ドイツ分裂  
 第30回：第二次大戦後の世界への展望(2)過去の克服とヨーロッパへの道

**教科書**

なし

**参考文献**

業中にその都度紹介する。

これ以外に、ドイツ史の概観・基礎的な知識を得るために：

1. 若尾祐司・井上茂子『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ書房。
2. 矢野久・ファウスト『ドイツ社会史』有斐閣コンパクト

**成績評価方法**

定期的にコメント・質問用紙を回収し平常点として考慮する。期末には論述試験を行う。

EU 科目名：Contemporary European Politics / 開講大学での科目名：現代ヨーロッパ政治

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
大阪大学法学部	木戸 衛一	2 単位	2 学期

**授業の目的**

「強欲と暴力の帝国」米国の凋落が歴然とし、世界政治における欧州の役割が改めて注目されている。本授業では、独仏共通歴史教科書を素材に、第二次世界大戦後の欧州と世界の歩みに関する知見を深め、平和で公正な 21 世紀のあるべき姿を展望する。

**講義内容**

本格的には、教科書の内容（第 1 部：第二次世界大戦終戦直後(1945～1949)と戦争の記憶、第 2 部：二極世界の中のヨーロッパ(1949～1989)、第 3 部：グローバル化した世界の中のヨーロッパ(1989～現在)、第 4 部：1945 年以降の技術、経済、社会、文化の変容、第 5 部：1945 年以降のドイツ人とフランス人）に即して講義を進める。時宜に応じて、アクチュアルなテーマを取り上げ、またビデオ鑑賞なども行う。

**教科書**

『ドイツ・フランス共通歴史教科書 1945 年以後のヨーロッパと世界』（明石書店、2008 年）

**参考文献**

ファルク・ピンゲル／近藤孝弘『和解のための歴史教科書』（NHK 出版、2008 年）

**成績評価方法**

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

授業中に指示する。  
オフィスアワー  
特に設けていないので、事前予約で対応する。

(b) History Module/歴史科目群

EU 科目名 : Western Legal History / 開講大学での科目名 : 西洋法史			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学法学部	瀧澤 栄治	4 単位	後期
<p><b>授業のテーマと目標</b> ローマ法は中世末から近世初頭にかけてヨーロッパ諸国の法制として継受され、近代諸国の私法典、私法学の基礎となった。日本の民法典も、フランス、ドイツの私法を通じて間接にローマ法を継受したとすることができる。授業では、ローマ私法における制度、概念、思考方法について、債権法を中心に学習し、必要に応じて物権法についても学んでもらう。ローマ法に関する基本的な知識を習得して、ローマ契約法の全体構造、その特徴について説明することができるようになることが第一の目標である。[EUIJ 科目]</p> <p><b>授業の概要と計画</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ローマ法とは何か（ローマ法史概説）</li> <li>2. ローマ民事訴訟手続概説（法律訴訟・方式書訴訟）</li> <li>3. 債務関係と訴権（いわゆるアクティオ的思考）</li> <li>4. 訴権と方式書（方式書の種類と内容）</li> <li>5. 債務関係の分類（契約、準契約、不法行為、準不法行為）</li> <li>6. 要物契約（消費貸借、使用貸借、寄託、質）</li> <li>7. 言語契約（問答契約）</li> <li>8. 文書契約（金銭出納簿への支出の記入）</li> <li>9. 諾成契約（売買、賃約、委任、組合）</li> <li>10. 無名要物契約（先行給付を成立要件とする給付交換型の無名契約）</li> <li>11. 無方式合意（市民法の枠外における合意の法的保護）</li> <li>12. 準契約（事務管理、不当利得）</li> <li>13. 不法行為（窃盗、不法損害、人格権侵害）</li> <li>14. 付加的性質の訴権（家長・主人、船主・経営者の責任）</li> </ol> <p>以上の講義において、必要に応じて占有、所有権、担保権の問題にも触れる。</p> <p><b>成績評価方法と基準</b> 期末試験（100%）により成績評価を行う。試験は論述形式の問題を出題する予定。</p> <p><b>履修上の注意（関連科目情報等を含む）</b> 授業は教科書（下記教科書参照）を用いて行う。 なお、民法、特に債権法についての、またローマ史についての基本的な知識を習得していることが望ましいが、講義自体はそれを前提として行うものではない。</p> <p><b>学生へのメッセージ</b> 法の歴史にも興味を持つと、法の世界が広がり、理解も深まります。</p> <p><b>教科書ト</b> ゲオルク・クリンゲンベルク著『ローマ債権法講義』 ローマ債権法講義 / クリンゲンベルク : 大学教育出版, 2001 年, ISBN:4887304501</p> <p><b>参考書・参考資料等</b> ゲオルク・クリンゲンベルク著『ローマ物権法講義』 ウルリッヒ・マンテ著『ローマ法の歴史』 ローマ物権法講義 / ゲオルク・クリンゲンベルク : 大学教育出版, 2007 年, ISBN:9784887307261 ローマ法の歴史 / ウルリッヒ・マンテ : ミネルヴァ書房, 2008 年, ISBN:9784623052400</p> <p><b>授業における使用言語</b> 日本語 <b>キーワード</b> ローマ法</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

EU 科目名 : Advanced History of European Integration			
開講大学での科目名 : 上級欧州統合史			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学経済学部	奥西 孝至	2 単位	前期
<p><b>授業のテーマと目標</b> 現代進行している EU の形成に至る中世末期からのヨーロッパにおける長期的な経済統合を、多角的に分析することでその特質を明らかにする。</p> <p><b>授業の概要と計画</b> 以下のテーマでの講義を行う。 ヨーロッパ統合の普遍性と独自性、地域統合を考える上での理論的前提、経済発展に対する機能分析と進化論的アプローチ、中世ヨーロッパの商業と市場、中世末期以降の流通の広域化と地域分業化の進展、重層的流通ネットワークの形成と変化の不均等、ヨーロッパの中心としての低地地方、近代ヨーロッパにおける地域分業、工業化の進展とヨーロッパの経済統合、パックスブリタニカの時代 グローバル化の進展とヨーロッパ、世界大戦とヨーロッパ統合、東西冷戦とヨーロッパ統合、ヨーロッパ統合から見た EU</p> <p><b>成績評価方法と基準</b> 期末テスト（100%）の評価による。</p> <p><b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b> EUIJ 関連科目である。</p> <p><b>オフィスアワー・連絡先</b> 特にオフィスアワーは設定しないが、必要な場合は質問に答える時間を相談のうえもうける</p> <p><b>学生へのメッセージ</b> 歴史的事象の細部にとらわれるのではなく、それが以下に大きな流れに結びつき、経済学的な法則性を持って相互に関係しながら存在しているのかを明らかにします。</p> <p><b>参考書・参考資料等</b> 西洋経済史 / 奥西孝至他 : 有斐閣, 2010 年, ISBN:978-4-641-12404-2</p> <p><b>授業における使用言語</b> 日本語</p> <p><b>キーワード</b> 多様性 市場経済化 ネットワーク 中心性 地域分業</p>			

EU 科目名 : Intro to History Chrsty - Medieval Age			
開講大学での科目名 : キリスト教の歴史 (古代～中世)			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学神学部	岩野 祐介	2 単位	春学期
<p><b>副題</b> キリスト教史 (古代・原始教会から中世キリスト教世界の繁栄と衰退まで)</p> <p><b>講義目的</b> 講義目的 本講義の目的は、ユダヤ教の内部運動としてはじまったキリスト教がローマ帝国の国教となってから、中世キリスト教世界が成立し発展を遂げるまでのキリスト教史を学ぶことである。</p> <p><b>到達目標</b> 人物、書物、土地、政治との関係、文化・学問との関係など、総合的な視点からキリスト教史の基本的知識を参加者各自が身につけることを目標とする。そのまま現代的課題に直結する問題であり、自らもその中に含まれているということ意識して参加して欲しい。</p> <p><b>各回ごとの授業内容</b> 第1回 4/8 この講義の概要説明とガイダンス／キリスト教史概説 第2回 4/15 ユダヤ教とイエス、キリスト教 第3回 4/22 原始教団の成立／ペテロとパウロ 第4回 5/6 教父の活動 第5回 5/13 ローマ帝国とキリスト教 1 迫害の時代 第6回 5/20 ローマ帝国とキリスト教 2 国教化の時代 第7回 5/27 東西教会の分裂</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

<p>第 8 回 6/3 西欧キリスト教世界の成立と発展 第 9 回 6/10 中世キリスト教会の発展と教皇 第 10 回 6/17 修道院の成立と修道会の活動 第 11 回 6/24 十字軍の時代 12 回 7/1 トマス・アキナスとスコラ学 第 13 回 7/8 中世キリスト教世界の危機と宗教改革前史 第 14 回 7/15 まとめと展望</p> <p><b>授業方法</b> 基本的に講義形式で行うが、受講者には積極的な参加を期待したい。適宜意見や質問への回答等の発言を要求するので、相応の自覚をもって臨むこと。また講義内容の理解度や知識の定着を確かめるため、授業内に小レポート・小テストを実施する予定である。</p> <p><b>教科書</b> 教科書は特に掲載しない。</p> <p><b>参考文献</b> 参考文献については授業中に指示する。</p> <p><b>成績評価方法・基準</b> 定期試験 (Final examination) 出席・授業態度 (小レポートや小テストの結果を含む) 30%、定期試験 70%により総合的に評価する。</p> <p><b>学生による授業評価の方法</b> 授業内で実施</p> <p><b>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連</b> 世界史、特に西洋史の基礎知識は不可欠である。キリスト教史は神学科目全般の基礎知識として重要であるので、しっかり学んでおいて欲しい。多くの論点は現代へとつながるものであり、単に過去の出来事としてすまされる問題ではない。単なる出来事や人名、年代の羅列ではなく、なぜそうなっていったのか、という因果関係や影響関係にしっかりと注意を払って欲しい。</p> <p><b>キーワード</b> ユダヤ教／キリスト教／イエス・キリスト／使徒／聖書／教父／カトリック／教皇／十字軍／正教会</p>
---

EU 科目名 : History of Chrsty:Reform to the Present			
開講大学での科目名 : キリスト教の歴史 (宗教改革以降)			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学神学部	岩野 祐介	2 単位	秋学期
<p><b>副題</b> キリスト教史 (宗教改革～近・現代)</p> <p><b>講義目的</b> 講義目的 本講義の目的は、中世キリスト教世界の崩壊と宗教改革から、近・現代に至るまでのキリスト教史を学ぶことである。</p> <p><b>到達目標</b> 人物、書物、土地、政治との関係、文化・学問との関係など、総合的な視点に基き、キリスト教史の基本的知識を参加者各自が身につけることを目標とする。そのまま現代的課題に直結する問題であり、自らもその中に含まれているということを意識して参加して欲しい。</p> <p><b>各回ごとの授業内容</b> 第 1 回 この講義の概要説明とガイダンス／近現代キリスト教史概説／「近代」という概念 第 2 回 中世キリスト教世界の危機と宗教改革前史／ルネサンスと人文主義 第 3 回 ルターの宗教改革とドイツの展開 第 4 回 ツヴィングリの宗教改革とスイス周辺の展開 第 5 回 カルヴァンの宗教改革とフランス、フランス語圏への影響、展開 第 6 回 オランダの宗教改革／宗教改革急進派 第 7 回 イングランドの宗教改革と国教会 第 8 回 ピューリタンとイギリスの市民革命 第 9 回 近代初期のキリスト教／アメリカのキリスト教 第 10 回 近代ヨーロッパ、啓蒙の時代とキリスト教 第 11 回 19 世紀・20 世紀のキリスト教</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

- 第 12 回 日本キリスト教の展開／世界キリスト教史の中の日本キリスト教史  
第 13 回 現代のキリスト教と諸課題  
第 14 回 まとめと展望／科学と宗教、政治と宗教

**授業方法**

基本的に毎回プリント資料を配布し、講義形式で行うが、受講者には積極的な参加を期待したい。適宜、意見や質問への回答等の発言を要求するので、それ相応の自覚をもって臨むこと。また講義内容の理解度や知識の定着を確かめるため、授業内に小レポートを実施する予定である。

**教科書**

(特に指定なし)

**参考文献**

授業中に指示

**成績評価方法・基準**

定期試験 (Final examination)

出席＋授業参加態度 (小レポートの結果を含む) 30%、試験 70%により総合的に評価する。出席が規定回数に満たない場合は試験を受ける権利を失うことになるので注意して欲しい。

**学生による授業評価の方法**

授業内で実施

**準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連**

日本のキリスト教は宗教改革及び近・現代キリスト教史と強い関わりがあるということを考えれば、日本でキリスト教と何らかのかかわりを持つ者すべてにとって、近・現代キリスト教史はきわめて重要な科目である。また西洋哲学史とは密接な関連があるので、意識して受講すること。

**キーワード**

キリスト教／宗教改革／ルネサンス／人文主義／カトリック／プロテスタント／教派／聖書翻訳／科学と宗教／政治と宗教

EU 科目名 : European Legal History / 開講大学での科目名 : 西洋法制史

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
大阪大学法学部	三成 賢次	2 単位	2 学期

**授業の目的**

明治以降わが国は、近代化の枠組みである近代法制を整備するにあたって、西欧とくにドイツから様々な法制度、法学説を継受してきた。わが国の現代法制は、ドイツ法史を歴史的源流としてもつ近代法原理に基礎づけられているのである。講義ではそのような歴史的経緯をふまえ、ドイツ法史を主たる考察対象にしつつ、近現代の法と法学、そして国制がどのような歴史的伝統のもとに、またいかなる歴史的条件のなかで形成されてきたかを概観する。講義を通じて、現行法に対する歴史的、比較的な理解を深め、法と政治に関わる勉学が必要とされる、複眼的な視点をもった柔軟な社会科学的な思考を育んでもらいたい。

**履修条件・受講条件**

特になし。

**講義内容**

今年度は、以下の予定に従って授業する予定である。

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1) はじめに：講義のテーマと課題  | 15) 三月前期ドイツの法と社会     |
| 2) 封建社会            | 16) 三月革命期ドイツにおける国制改革 |
| 3) 中世都市            | 17) プロイセンにおける三月革命    |
| 4) 中世の大学           | ： 1850年憲法体制          |
| 5) 近世の国制：神聖ローマ帝国   | 18) ドイツ第二帝制          |
| 6) 領邦体制：プロイセン国制    | 19) ドイツ第二帝制期の公法学     |
| 7) ローマ法の継受と近世ドイツ法学 | 20) ドイツ民法典の編纂        |
| 8) 近世自然法学と帝国国法論    | 21) ヴァイマル憲法体制        |
| 9) 近世刑事法制          | 22) ヴァイマル期の法と法学      |
| 10) 魔女裁判と自然法思想     | 23) ナチズム体制           |
| 11) プロイセン改革 1      | 24) ナチズム期の法と法学       |
| 12) プロイセン改革 2      | 25) ボン基本法体制          |
| 13) 法典論争と歴史法学      |                      |
| 14) ドイツ同盟          |                      |

**教科書**

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

とくに指定しない。

**参考文献**

講義の際に適宜提示するが、さしあたり以下の文献をあげておく。

- 三成賢次他著『法制史入門』（ナカニシヤ出版、1996年）  
林健太郎編『ドイツ史（新版）』（山川出版社、1977年）  
F. ハルトウング／成瀬・坂井訳『ドイツ国制史』（岩波書店、1980年）  
ミッタイス＝リーベリッヒ／世良訳『ドイツ法制史概説・改訂版』（創文社、1976年）  
ミッタイス／世良・広中訳『ドイツ私法概説』（創文社、1961年）  
シュロッサー／大木訳『近世私法史要論』（有信堂、1993年）  
山田晟『ドイツ近代憲法史』（東大出版会、1963年）  
メンガー／石川他訳『ドイツ憲法思想史』（世界思想社、1988年）  
勝田他編著『概説西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2004年）  
ハフト／平田訳『正義の女神の秤から』（木鐸社、1995年）

**成績評価方法**

学期末の試験による。

**コメント**

- 講義内容に関し、一つのテーマで複数回にわたる講義を行うことも、また複数回の講義を1回でまとめることもある。
- レジュメと講義資料は、講義の際には配布しない。講義レジュメと講義資料を事前にWebCTに掲載するので、それらを各自でダウンロードし、予習のうえ講義に持参すること。
- 講義ではパワーポイントを用い、できる限りヴィジュアルな資料を図示しながら講義を行う。
- パワーポイントの資料は、講義後、WebCTに一定期間掲載するので、各自参照すること。
- 講義でパワーポイントを用いるため、講義室によっては、プロジェクタを投影するスクリーンの下の席を空けておくこと。
- EU研究修士証プログラム（EUIJ関西）科目（歴史）

EU 科目名 : European Economic History / 開講大学での科目名 : 西洋経済史			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
大阪大学経済学部	重富 公生	4 単位	1 学期
<p><b>授業の目的</b> 近代初頭から 20 世紀後半にいたる欧米の経済史の概略を理解していただくことをねらいとしています。対象となる地域やトピックはきわめて多岐にわたりますので、広くかつ深く講義するのはなかなか難しいですが、なるべく要点を絞ってお話します。「産業革命」に始まる急速な工業化の進展と広域的な流通ネットワークの形成を軸に、欧米以外の国々や地域との関係をも視野に入れながら、できるかぎり多面的に理解していただけるような展開を考えています。</p> <p><b>履修条件・受講条件</b> なし</p> <p><b>講義内容</b> I. 東西交易とオランダの覇権 II. 産業革命とパクス・ブリタニカ III. ヨーロッパ大陸の工業化 IV. アメリカ合衆国の経済的躍進 V. 19 世紀の世界経済：システムとネットワーク VI. 両世界大戦間期の欧米経済 VII. 戦後世界経済と高度成長</p> <p><b>教科書</b> 用いません。</p> <p><b>参考文献</b> 講義中に適宜指示いたします。</p> <p><b>成績評価方法</b> 原則として学年末試験の成績により評価します。</p> <p><b>コメント</b> なし</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

EU 科目名 : Economic and Social History / 開講大学での科目名 : 経済史			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
大阪大学経済学部	鳩澤 歩	4 単位	2 学期
<p><b>授業の目的</b> この講義では、近現代経済史に関する基本的な知識を提供する。18 世紀以降今日に至る欧米経済の歴史的経験、後発工業国日本の 20 世紀における経験を通じて、今日の私たちの経済・社会のかかえる問題の根源について考察する基盤を得ることが目的である。 &lt;到達目標&gt;近現代日本経済史・欧米経済史の基礎的な知識を有し、経済史学を含む現代経済学の成立に関する一定の理解を持つようになること。</p> <p><b>履修条件・受講条件</b> 特になし</p> <p><b>講義内容</b> 上記目的を達成するために以下の項目について講義する。まず講義前半（10-12 月中）では近代欧米社会に成立した新しい学問であった「経済史学」の生成と展開を軸に、欧米経済史をフォローする。講義後半では日本経済史を中心に各時期の状況と経済史学の関わりを論じる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. なぜ「経済史」を学ぶのか；ケインズ、ヒックス、M. ブロック、シュンペーターの言説から</li> <li>2. 経済史学のなりたち（1） 近代歴史学の成立</li> <li>3. 経済史学のなりたち（2） 経済学の成立；古典派経済学とその「いきづまり」</li> <li>4. 経済史学のなりたち（3） ドイツ歴史学派の誕生</li> <li>5. 経済史学のなりたち（4） 経済史学のはじまり（世紀転換期ドイツ）</li> <li>6. 経済史学のなりたち（5） 経済史学のはじまり（近代ドイツ経済史概説）</li> <li>7. 経済史学のなりたち（6） 経済史学の成立と国際的波及</li> <li>8. 経済史学のなりたち（7） 経営史学の登場</li> <li>9. 経済史学のなりたち（8） 第二次世界大戦後の経済史学</li> <li>10. 経済史学のなりたち（9） 「経済成長の黄金時代」の終焉と現代の経済史学</li> <li>11. 経済史学のなりたち（10） 日本における経済史学の成立</li> <li>12. 経済史学のなりたち（11） 1930年代と戦争の時代における経済学・経済史学</li> <li>13. 経済史学のなりたち（12） 戦後改革と経済史学</li> <li>14. 経済史学のなりたち（13） 高度成長と経済史学</li> <li>15. 経済史学のなりたち（14） 高度成長以後の経済史学</li> </ol> <p>以上の順序で講義を進める。ただしこれはあくまで予定であって進捗状況によって変更することがありうる。</p> <p><b>教科書</b> 奥西・鳩澤・堀田・山本『西洋経済史』（有斐閣、2010 年刊）</p> <p><b>参考文献</b> 経営史学会編『外国経営史の基礎知識』（有斐閣、2005 年） 岡崎哲二『工業化の軌跡：経済大国前史』（読売新聞社、1997 年） 香西泰『高度成長の時代』（日本評論社、1981 年） その他、授業中に適宜指定する。</p> <p><b>成績評価方法</b> 定期試験をベースに評価する。</p> <p><b>コメント</b> 経済現象への歴史的アプローチは、学生諸君が今後いかなる専門分野に進むにせよ、経済学の学習・研究の出発点ないし基盤となるものである。経済学の入門時に「経済史」を履修することを強く勧める。</p>			

(c) Law and Politics Module/法律・政治科目群

EU 科目名 : History of International Relations / 開講大学での科目名 : 国際関係論 II			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学法学部	増島 建	4 単位	前期
<p><b>授業のテーマと目標</b> 国際関係論の応用科目として、国際関係における先進国・途上国関係の展開を対象とします。ヨーロッパ諸国による植民地化、植民地地域の独立の獲得過程を経て、主権国家間の関係として先進国・途上国関係が形成されていく過程を概観し、国際協力（特に開発援助を中心とする国際開発協力）が先進国による途上国政策の手段として形成・展開する過程を検討します。また今日の先進国・途上国関係が、冷戦終焉後の 1990 年代にどのように変化したのかを検討します。</p> <p><b>授業の概要と計画</b></p> <p>(1) 植民地化 (colonization) と非植民地化 (decolonization) ヨーロッパ諸国による植民地化 植民地化の種類・要因 非植民地化の展開 非植民地化の種類・要因</p> <p>(2) 国際開発協力の形成と展開 国際開発協力の起源 国際開発協力の誕生 国際開発協力の展開</p> <p>(3) 冷戦後の国際協力の変化 冷戦の終焉と先進国・途上国関係 民主化・ガバナンス 紛争と平和構築</p> <p>の 3 部にかけて検討します（各部の比重・扱う順序は年により前後する可能性があります）。詳しい進行予定表と各回ごとの内容は、初回に配布します。 各回は、概ね 3 つのセッションに分かれます。</p> <p>(1) 先進国・途上国関係に関する時事問題についての参加者によるディスカッション (2) 教員による講義 (3) 資料・テーマについての参加者による作業</p> <p>適宜、ビデオ教材を活用し、歴史の臨場感を可能な限り再現するようにしたいと思います。また、内外のゲスト（専門家、国際機関職員、外務省職員）もお招きしたいと思います。</p> <p><b>成績評価方法と基準</b> 期末試験、参加率（出席・発言・レポート提出状況）による。</p> <p><b>履修上の注意（関連科目情報等を含む）</b> この授業は、教員による一方的な講義形式ではなく、教員と参加者の相互作用による国際関係論の応用科目です。したがって、参加者のグループディスカッション、レポート作成など主体的な作業が求められます。英語の資料等も用いますが、解説を詳しくするなど配慮します。EUIJ 科目</p> <p><b>オフィスアワー・連絡先</b> 授業後に質問に応じます。また随時メールによるアポの予約の受付をします。</p> <p><b>学生へのメッセージ</b> 国際機関（国連、世界銀行、OECD など）に関心のある方にも参考になるでしょう。</p> <p><b>教科書</b> 特になし。適宜、一次資料などを当方が準備し、配布します。</p> <p><b>参考書・参考資料等</b></p> <p>(1) に関して 北川勝彦編著『脱植民地化とイギリス帝国』（ミネルヴァ書房、2009年） レイモンド・F・ベッツ『フランスと脱植民地化』（晃洋書房、2004年）</p> <p>(2) に関して 西垣昭・辻一人・下村恭民『開発援助の経済学』第4版（有斐閣、2009年） 絵所秀紀『開発の政治経済学』（日本評論社、1997年）</p> <p>(3) に関して 稲田十一編『開発と平和一脆弱国家支援論』（有斐閣、2009年）</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

などがあるが、その他授業中に適宜紹介します。

EU 科目名 : Law of International Organisation / 開講大学での科目名 : 国際機構法			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学法学部	柴田 明穂	2 単位	前期
<p><b>授業のテーマと目標</b> 国際機構・国際連合をめぐる国際交渉・判例・事件を具体的に検討し、その法的分析を通じて、国際機構法の理解が深まることを目的とする。〔E U I J 科目〕</p> <p><b>授業の概要と計画</b> 本講義は、大まかに、以下の3部で構成される。第1部（3回）は、国際交渉の現場でいかに国際法ないし国際機構法の知見、理論が問題となっているかについて、教員が体験した南極条約事務局設立交渉について検討する。第2部は、同交渉で問題となった国際機構法上の諸問題（国際機構の概念・要件、法主体性、権限、責任等）について、学説と判例を中心に検討を加える（8回）。第3部は、国際機構の諸活動とそれを律する法規範の展開について、主に国際連合を中心に考察する（4回）。より詳細な講義内容、レジュメ等は、教員の個人HP上で公開すると共に、授業開始時に適宜配布する。</p> <p><b>成績評価方法と基準</b> 期末試験を中心に、加点事由として、授業時の議論への貢献度、期間中実施する可能性があるミニテストを加味して評価する。</p> <p><b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b> 国際法概論、および、憲法・行政法・国際関係論関連科目を履修済であるか並行して履修することが望ましい。講義は、予習を前提に、対話形式を取り入れて行われる。</p> <p><b>オフィスアワー・連絡先</b> 開講時に指示する。それ以外の時間であれば、e-mail で事前連絡すること。</p> <p><b>学生へのメッセージ</b> 国際法ないし国際機構法が、単に、机上の理論だけではなく、実際の国家間の交渉や実行において議論され、使用され、発展させられていることを、体感していただければと思っている。なお、将来の目標として外交官や国際公務員を考えている学生には、必ず受講してほしい。教員のプロフィール等については、下記HPを参照。</p> <p><b>今年度の工夫</b> 国際機構法をめぐる実践（交渉、判例）と理論を有機的に結びつけた授業にしてみたい。</p> <p><b>教科書</b> 教科書は指定しない。条約集は必携。</p> <p><b>参考書・参考資料等</b> 参考文献・資料等は、教員側で用意して授業時に配布する。講義対象の性質上、英語資料を配付することもある。第1部については、以下を中心に扱う。 柴田明穂「南極条約事務局設置の法的意義」『岡山大学法学会雑誌』53巻3/4号(2004年)、119-182頁。(授業開始前に事務を通じて配布するので、初回から予習をしてください。) 国際組織法 / 佐藤哲夫 : 有斐閣, 2005, ISBN:4641046344 国際機構条約・資料集 / 香西茂、安藤仁介 : 東信堂, 2002, ISBN:488713455x International Institutional Law / Schermers and Blokker : Martinus Nijhoff Pub., 2003, ISBN:9004138285</p> <p><b>授業における使用言語</b> 講義は日本語で行うが、必読文献、参考文献には英語のものが多く含まれる。</p> <p><b>キーワード</b> 国際法 国際機構法</p>			

EU 科目名 : International Relations / 開講大学での科目名 : 国際関係論 1			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学法学部	栗栖 薫子	4 単位	後期
<p><b>授業のテーマと目標</b> 国際関係論 (IR) の基本的な考え方やモデルを学ぶ。国際関係論がどのように現代世界の状況を理解し説明しようとしているのか、基本となる概念やモデルを学習する。国家、パワー、主権など国際政治の基礎的概念を理解したうえで、実際の国際政治上の現象や課題を参照しながら、現実主義、自由主義、従属論、社会構成主義などの主要な理論体系を学ぶ。</p>			

# Undergraduate Certificate プログラム

## 2011 年シラバス

国際関係を理解し分析するうえで必要な基礎的な概念やモデルを理解すること、それを用いて学生自身が現実の国際政治上の問題について簡単な分析が行えるようになることが目標である。[EUIJ 科目]

### 授業の概要と計画

#### 第1単元 基礎概念

1. Introduction

2、3 基礎概念

#### 第2単元 現実主義

4. 現実主義(1) 古典的現実主義

5. 現実主義(2) ネオリアリズム

6、7 現実主義(3) 新しい論点

#### 第3単元 多元主義

8. 多元主義の諸モデルの特徴と概観

9. 統合理論: 地域主義、地域統合

10. 民主制による平和論とその批判

11、12、13 国際レジーム論とグローバル・ガヴァナンス

#### 第4単元 階層的国際システム論

14、15 南北問題と従属論

16、17 世界システム論

#### 第5単元 コンストラクティビズム (社会構成主義)

18、19 構造と代理人、規範、社会構成主義

20、21 規範サイクルモデル(伝播モデル)と規範受容モデル

22 国際関係論の諸論争

#### 第6単元 対外政策決定論

23、24 アリソン・モデル

25 国内政治と対外政策決定

26、27 ツーレベル・ゲーム、多国間交渉モデル

#### 第7単元 規範理論

28 規範理論

29 英国学派

30. 期末試験

### 成績評価方法と基準

1. スタディ・クエスチョン (SQ) への回答 (45%)、2. 期末試験 (55%) を総合して評価。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

本講義の内容を習得して、さらに国際関係論 2、対外政策論(旧現代外交論)へ進むことが推奨される。

・指定教科書の内容はごく基礎的なものである。追加的に配布する資料(文献)や文献リストに、必ず目を通し理解することが求められる。

・新聞の国際面、社会面に必ず目を通すこと。

### オフィスアワー・連絡先

講義時間後(またアポイントメントによっても可能)

### 学生へのメッセージ

ここで示される IR の分析概念やモデルは、国際協力、外交、ジャーナリズムなど国際的事象にかかわるキャリアへと進むうえでも必須の内容である。

### 教科書

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将 『国際政治学をつかむ』有斐閣、2009年; 野林健・大芝亮・納家政嗣・山田敦・長尾悟 『国際政治経済学・入門 第3版』有斐閣、2007年。これ以外に必要な文献はアップロードする(講義中に URL を周知)

### 参考書・参考資料等

ジョセフ・ナイ(田中明彦・村田晃嗣訳) 『国際紛争-理論と歴史 原書第7版』有斐閣、2009年; 田中明彦・中西寛編 『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2004年。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

国際関係、国際政治、国際政治経済、対外政策決定

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

EU 科目名 : Modern Diplomacy / 開講大学での科目名 : 対外政策論			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学法学部	大村 啓喬	4 単位	後期
<p><b>授業のテーマと目標</b> 本授業は、受講生に、国際関係論の一分野である対外政策論について勉強してもらう。受講生達は講義と課題レポートを通して、(1) 対外政策論の思考を手掛かりとして、国際社会で起こっている様々な現象の因果関係・因果メカニズムを論理的に理解・説明できる能力と (2) 研究課題の発見、理論的考察と仮説の導出、経験的証拠による仮説の検証を行うための研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p><b>授業の概要と計画</b> 講義では、国家の対外政策・対外行動に関わる様々な問題（戦争、国際危機、経済摩擦、国際交渉等）を取り上げる。授業計画は、以下に示すような 3 段階からなる。</p> <p>(1) イントロダクション 第一部では、伝統的な対外政策論（対外行動論）の問題点を理解しつつ、これまでの研究内容を把握する。</p> <p>(2) 対外政策・対外行動の理論分析 第二部では、対外政策・対外行動に関して国家間の戦略的相互作用と国内政治環境を重視した理論研究（バーゲニング理論を中心に）を学習する。これまでに蓄積された良質の理論研究を学ぶことで、他国との相互作用と国内政治環境の変化によって、当該国家の対外政策・行動がどのように変化するかについての一貫した説明ができるようになる。</p> <p>(3) 対外政策・対外行動の実証分析 第三部では、第二部で取り上げた理論を実証する研究について勉強する。事例研究、インタビュー、計量分析等の多様な実証方法を用いた研究例を理解することで、「仮説検証」のトレーニングを積むことを目指す。なお本授業は、「EUIJ 科目」も兼ねている。</p> <p><b>成績評価方法と基準</b> 1. 出席：授業中に配布する質問用紙への記入が出席の代わりとなります 2. 小レポートの提出：レポート用のテーマを提示するので、それについて A4 で 1-2 枚の小レポートを提出してもらいます（合計 4 回） 3. 期末レポートの提出：受講生自ら選択したテーマについて A4 で 5 枚-10 枚の期末レポートを提出してもらいます。</p> <p><b>履修上の注意（関連科目情報等を含む）</b> 講義内容の理解と課題の達成には、国際関係論だけの知識だけでなく国内政治に関する知識や経済学で用いる分析手法の基礎の習得も必要となるため、他分野を含めた積極的な学習が必要となります。指定する課題文献については、必ず授業までに目を通しておいて下さい。</p> <p><b>オフィスアワー・連絡先</b> メールをいただければ、適宜対応します。</p> <p><b>学生へのメッセージ</b> 本授業を通して、理論的思考と実証精神をバランスよく身につけ、一緒に最新の研究について学んでいきましょう。</p> <p><b>今年度の工夫</b> 講義では、学生達の主体的な学習意欲の促進を目指し、教員による一方的な説明ではなく、質問やディスカッションを重視します。</p> <p><b>教科書</b> 講義の初回で紹介します。</p> <p><b>参考書・参考資料等</b> 講義の初回で紹介します。</p> <p><b>授業における使用言語</b> 日本語</p> <p><b>キーワード</b> 対外政策、戦略的相互作用、国内政治、バーゲニング理論、実証分析</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

EU 科目名 : Readings in European Law / 開講大学での科目名 : 外国書講読 (仏書)			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学法学部	興津 征雄	2 単位	後期
<p><b>授業のテーマと目標</b> ヨーロッパ法 (EU 法またはヨーロッパ人権条約) についてフランス語で書かれた文献を講読し、 (1) 新たな国家結合体・政治的共同体の構築において法の果たす役割を知ること、 (2) フランス語それ自体の読解力の涵養を図ること、 を目的とする。</p> <p><b>授業の概要と計画</b> 受講人数にもよるが、事前に担当者を決めるのではなく、その場でランダムに指名して少しずつ音読・訳読してもらおう方式を予定している。そして、それを受けて全員で議論する。</p> <p><b>成績評価方法と基準</b> 平常点。受講人数が多い場合には学期末にレポートを課すこともありうる。</p> <p><b>履修上の注意 (関連科目情報等を含む)</b> フランス語については、第二または第三外国語等で履修済みであることが望ましい。初めての者は、夏休み中に初級文法を独習しておくこと。</p> <p><b>オフィスアワー・連絡先</b> 教員の研究室を来訪する際は、あらかじめアポイントメントを得ること。メールアドレスは以下を参照。</p> <p><b>学生へのメッセージ</b> 少人数科目では当然のことであるが、毎回全員の予習および出席が義務であり、議論への積極的な参加も求められる。また、本学は EU/IJ 関西を擁し、この授業以外にも多彩な EU 関係の授業が提供されているので、興味のある者は積極的に受講することを勧める。</p> <p><b>今年度の工夫</b> フランス語の精確な読解を旨とすることはもちろんであるが、今年度は、ある程度の分量を読むことも目指したい。どのレベルの文献をどの程度のペースで読むかは、開講時に受講者のフランス語力を聴取したうえで決定する。</p> <p><b>教科書</b> EU 法またはヨーロッパ人権条約に関するフランス語文献。詳細は開講時に指示する。 なお、初学者は電子辞書ではなく紙の辞書を使用することがきわめて望ましい。</p> <p><b>参考書・参考資料等</b> ヨーロッパ統合についてのイメージをつかむには、下記の 2 冊の岩波新書が入門書として好適である。 フランス語の法律用語を調べるためには、一般の仏和辞典のほか、下記の辞典が有益である。 欧州連合：統治と論理のゆくえ / 庄司克宏：岩波書店 (岩波新書) , 2007 年, ISBN:978-4-00-431099-0 大欧州の時代：ブリュッセルからの報告 / 脇阪紀行：岩波書店 (岩波新書) , 2006 年, ISBN:4-00-430997-2 フランス法辞典 / 山口俊夫：東京大学出版会, 2002 年, ISBN:978-4-13-031172-4</p> <p><b>授業における使用言語</b> 主として日本語によるが、フランス語の使用を妨げない。</p> <p><b>キーワード</b> フランス語 EU 法 ヨーロッパ人権条約</p>			

EU 科目名 : Social Security Law / 開講大学での科目名 : 社会保障法			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学法学部	関根 由紀	2 単位	後期
<p><b>授業のテーマと目標</b> 本講義は、社会保障の各制度の基本的構造と考え方を習得することを目的とする。医療保険法、公的年金各法、労働保険各法、社会福祉各法を取上げ、概説した上で、判例を用いて法的問題の検討を行うこととする。 ・当科目は EU/IJ/Certificate プログラムの登録科目です。</p> <p><b>授業の概要と計画</b> 以下のテーマにつき、それぞれ 1-2 回の講義でそれぞれ扱う。 ・社会保障の歴史・機能 ・社会保障の法的問題・保険原理・財源 ・医療保険 ・公的年金</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働保険（労働災害/雇用保険）</li> <li>・介護保険</li> <li>・社会福祉</li> <li>・公的扶助/生活保護</li> </ul> <p><b>成績評価方法と基準</b> 期末試験による。</p> <p><b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b> 行政法および労働法の基礎的知識を習得していることが望ましい。</p> <p><b>オフィスアワー・連絡先</b> 随時。授業後に質問を受け付けます。</p> <p><b>教科書</b> 教科書は指定しないが、参考書は以下のものを薦める。</p> <p><b>参考書・参考資料等</b> 参考書として以下のものを薦める。 また三省堂『新六法』は、他のコンパクトな六法よりも多く社会保障関連の法令が掲載されているので、講義時に参照するのに便利です。(期末試験の際の持込みも許可します) 社会保障法入門 補訂版 / 西村健一郎 : 有斐閣, 2010, ISBN: トピック社会保障法 第4版 / 小西啓文・田中秀一郎・原田啓一郎・増田幸弘 : 信山社, 2010, ISBN:</p> <p><b>授業における使用言語</b> 日本語</p>
--

EU 科目名 : Environmental Law / 開講大学での科目名 : 環境法			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学法学部	島村 健	2 単位	後期
<p><b>授業のテーマと目標</b> 今年度の「環境保護と法」は、次の 1 ないし 2 のいずれかの内容で行う。いずれの方法で行うかは、後期の履修登録前に掲示するので注意すること。 1 地球温暖化防止というわれわれ共通の課題について、国際交渉がどのようになされてきたか、そして、わが国においてどのような取り組みがなされてきたかという点について詳しく検討する。 2 わが国の環境法の主要な分野（公害規制、自然保護、廃棄物・リサイクル法制、地球環境保護）について概説する。担当教員も執筆している教材の出版が間に合えば 2 の内容で行う。間に合わなければ 1 の内容で行う。以下の授業の概要と計画は、1 の内容のものをさしあたり掲げている。[EUIJ 科目]</p> <p><b>授業の概要と計画</b> 1 地球温暖化問題 2/3 京都議定書にいたるまでの国際交渉 4/5 京都議定書の内容 6-14 わが国の温暖化対策 エネルギー転換部門、産業部門、運輸部門、民生部門 15 「京都議定書後」の国際的取り組みに向けて</p> <p><b>成績評価方法と基準</b> 定期試験による。</p> <p><b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b> 内容 1 となるか、2 となるか、履修登録前に、掲示で必ず確認してください。1 となるか 2 となるかによって、使用される教科書、ないし参考書が異なります。以下は、とりあえず 1 について記述しています。</p> <p><b>オフィスアワー・連絡先</b> 開講時に指示する。</p> <p><b>参考書・参考資料等</b> よくわかる地球温暖化問題（改訂版） / 気候ネットワーク : 中央法規出版, , ISBN: 京都議定書の国際制度 / 高村ゆかり=亀山康子編 : 信山社, , ISBN: 地球温暖化交渉の行方 / 高村ゆかり=亀山康子編 : 大学図書, , ISBN:</p> <p><b>授業における使用言語</b> 日本語</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

EU 科目名 : History of Western Political Philosophy B			
開講大学での科目名 : 西洋政治思想史 B			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学法学部	岡本 仁宏	2 単位	春学期
<p><b>副題</b> マキャベリからニーチェまで：近現代の政治思想</p> <p><b>講義目的</b> 「西洋」政治思想史から幾人かの思想、思想家を取り上げる。近世・近代政治思想からマキャベリからニーチェまで駆け足で講義する。人並みならぬ「西洋人」と直接対話できる快樂を共有したい。その過程で、社会、政治に対する代表的な見方、基本的な問題を考える。</p> <p><b>各回ごとの授業内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 西洋政治思想史について</li> <li>2. 古代および中世政治思想と近代政治思想との関係について</li> <li>3. マキャベリの世界：『君主論』を読む。</li> <li>4. ホッブズの世界その1：『リヴァイアサン』を読む。</li> <li>5. ホッブズの世界その2：『リヴァイアサン』を読む。</li> <li>6. ロックの世界その1：『市民政府論』を読む。</li> <li>7. ロックの世界その2：『市民政府論』を読む。</li> <li>8. ルソーの世界その1：『学芸論』と『人間不平等起源論』を読む。</li> <li>9. ルソーの世界その2：『社会契約論』を読む。</li> <li>10. マルクス・エンゲルスの世界：『空想から科学へ』と『共産党宣言』を読む。</li> <li>11. ニーチェの世界：『チャラトストラはかく語りき』『権力への意志』を中心に。</li> <li>12. まとめ——現代政治思想の諸展開</li> </ol> <p>なお、2 回分は、講義進行の調整用として用いる。</p> <p><b>授業方法</b> 講述、及び受講者との討論によってすすめる。基本的に受講者がテキストを読了してくることを前提として進める。</p> <p><b>教科書</b> マキャベリ『君主論』（中公文庫）。ホッブズ『リヴァイアサン』（1、2）（岩波文庫）。ロック『市民政府論』（岩波文庫）。ルソー『学問芸術論』（岩波文庫）。『人間不平等起源論』『社会契約論』（講談社学術文庫）。エンゲルス『空想から科学への社会主義の発展』マルクス『共産党宣言』（岩波文庫）。その他ニーチェの幾つかのテキスト。</p> <p><b>参考文献</b> 古賀敬太編『政治概念の展開』（晃洋書房）のシリーズ。今までに出ているもの、それぞれにコンパクトに政治概念の歴史を追っており、西洋政治思想史にとって有益。</p> <p><b>成績評価方法・基準</b> 定期試験 (Final examination) / 平常レポート (Ordinary paper) / その他 (others) 授業中の参加と期末の試験によって行う。参加については、テキストについて講義中に議論したり、レポートやコメントシートの提出を求めたりすることによって、具体的な機会を作る予定。</p> <p><b>学生による授業評価の方法</b> 授業中実施</p> <p><b>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連</b> とにかく古典テキストを読むことが大切。本講義は隔年開講である。間の年に開講される西洋政治思想史 A（近代以前の政治思想）と連続して受講することが非常に望ましい。昨年受講しなかった者は、来年度前期に A を開講予定なので、受講すること。</p> <p><b>キーワード</b> 政治/政治思想/マキャベリ/ホッブズ/ロック/ルソー/マルクス/エンゲルス/ニーチェ/現代政治思想/</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

EU 科目名 : International Cooperation / 開講大学での科目名 : 国際協力論			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学法学部	望月 康恵	2 単位	春学期
<p><b>講義目的</b> 「国際協力」とは何か、その概念や活動の歴史的変遷を探りながら、国際社会、国際機構、国家などが行ってきた協力のあり方について理解を深める。国際協力については、開発援助分野が中心とされるものの、国際社会の活動はさまざまなルールによって行われている。本授業においては、開発援助の重要性を踏まえながら、国際社会におけるルール（規範）の作成、発展、実行という観点を取り入れながら、国際協力のあり方について、考察を行う。さらには、国際協力分野における日本の役割についても概観することによって、私達の生活と国際協力とのつながりを考えたい。</p> <p><b>各回ごとの授業内容</b> 授業予定 1. はじめに 2. 国際社会による規範作成、発展、実践 &lt;分野別の協力&gt; 3. 貧困 4. 人権・人道分野 5. 開発援助 6. 平和活動 7. 犯罪 8. 環境 9. 軍縮 10. 感染症 &lt;国際協力を携わる主体&gt; 11. 国際機構、市民社会、企業 12. 日本の取り組み 13. 国際協力の今後の課題</p> <p><b>教科書</b> 必要な資料は授業中に配布する。 各自、興味関心のある者は、下記の参考文献を参照し、理解を深めることを推奨する。</p> <p><b>参考文献</b> 明石康『国際連合 軌跡と展望』岩波新書 2006年 草野厚『ODAの正しい見方』ちくま新書 1997年 西垣 昭・下村恭民・辻 一人 『開発援助の経済学〔第四版〕』有斐閣 2009年 服部正也『援助する国される国』中央公論新社 2001年 山田満 『「平和構築」とは何か 紛争地域の再生のために』平凡社 2003年 横田洋三『国際人権入門』法律文化社 2008年 渡辺利夫 三浦有史 『ODA(政府開発援助) 日本に何ができるか』中公新書 2003年</p> <p><b>成績評価方法・基準</b> 定期試験(Final examination)</p> <p><b>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連</b> 国際法、国際政治等に関連する科目を履修しておくことがのぞましい。</p> <p><b>キーワード</b> 国際法、国際機構、政府開発援助、平和構築 開発援助、人権</p>			

EU 科目名 : European Legal History A / 開講大学での科目名 : 西洋法史 A			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学法学部	黒田 忠史	2 単位	春学期
<p><b>副題</b> ヨーロッパ法文化の古層</p> <p><b>講義目的</b> 西洋古代・中世の法史料についての基礎的知識を習得し、近代法の基礎にある西政法文化の特性を理解することができる。</p> <p><b>各回ごとの授業内容</b></p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

- 第1講 序論（過去問解説、勉強方法、法史のトピック）  
 第2講 ヘブライズム法思想  
 第3講 古代ギリシャの民主政と陪審裁判  
 第4講 古ゲルマンの法と社会  
 第5講 古代ローマ法とユースティニアヌス法典  
 第6講 中世前期の裁判制度  
 第7講 レーエン制と村落法  
 第8講 都市の成立と発展  
 第9講 神の平和、ラントの平和  
 第10講 中世の大学と法学部  
 第11講 中世ローマ法学の展開  
 第12講 カノン法  
 第13講 ギルドとツンフトの制度と法  
 第14講 ローマ法の継受、まとめ

**授業方法**

パワーポイントや資料、視聴覚教材などを使用し、講義する。

**教科書**

特になし。

**参考文献**

勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』ミネルヴァ書房 2004年  
 黒田忠史著『西欧近世法の基礎構造』晃洋書房 1999年  
 上山安敏編『近代ヨーロッパ法社会史』ミネルヴァ書房 1997年

**成績評価方法・基準**

定期試験(Final examination)

**学生による授業評価の方法**

全学統一方式による調査。

**準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連**

前回までの配布資料の内容確認と「前回のテーマ」の復習。

**キーワード**

ヨーロッパ法文化。法の歴史。法の古層。

EU 科目名 : European Legal History B / 開講大学での科目名 : 西洋法史 B

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学法学部	深尾 裕造	2 単位	秋学期

**副題**

コモン・ロー法学史

**講義目的**

西洋法史Bでは、西洋法史を理解する上でポイントとなるトピックを採りあげ、個別的に掘り下げて検討することによって、ヨーロッパ法史への理解を深めることとしている。今年度は、ローマ法の影響を受けながらも、大陸ヨーロッパ法のような包括的継受乃至ローマ法化といった現象とは異なり、国王裁判所の法慣行を中心に自生的な発展を遂げたコモン・ロー法学の発展の歴史を、訴訟構造の変化、法学教育との関連等も視野に入れつつ、法文献の変遷を軸に検討することとする。

**各回ごとの授業内容**

- 1) はじめに：法書の時代を超えて →コモン・ローとコモン・ロー法学史
- 2) ヘンリ二世の法改革とグランヴィル：令状体系の形成と法学
- 3) ブラクトンとイングランド法：ローマ法とイングランド法、抗弁システムの発展
- 4) エドワード一世の立法とその意義：制定法令集とフランス語法文献
- 5) 初期コモン・ロー法文献の形成：令状・訴答用例集、旧土地法論と法廷年報
- 6) リトルトン、フォーテスキューの時代：法廷年報と中世末コモン・ロー法学の展開
- 7) 印刷術の導入とコモン・ロー法学：フィツハーバート法大要録と法学文献の革新
- 8) 人文主義とコモン・ロー法学：法文献の体系化とラミズム
- 9) チューダー期新立法と立法解釈論：プラウドゥン判例集とブラクトンの復活
- 10) 近代コモン・ロー法学への架橋：クック法学とその意義
- 11) 近代自然法論とコモン・ロー法学：ホップズ、ロックのコモン・ロー法学批判とその意味
- 12) イングランド名誉革命体制の法構造：ブラックストン『英法釈義』の誕生
- 13) 一九世紀法学教育改革とコモンロー法学：近代法曹養成と法学教科書

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

14) まとめにかえて: EU 統合とコモン・ロー法学

**授業方法**

教科書は使用せず、レジュメを配布する。図像資料、原典資料等をプロジェクターで提示することによって視覚的に理解できるように試みる。

**教科書**

授業において適宜指示するが、総括的なものとして下記のものがある。

上山安敏編『近代ヨーロッパ法社会史』（ミネルヴァ書房、1987）

碧海・伊藤・村上編『法学史』（東京大学出版会、1976）

プラクネット『イギリス法制史（総説編 下）』伊藤正己監修（東京大学出版会、1959）

J. ベイカー『イングランド法制史概説』小山貞夫訳（創文社、1975）

D・シュガーマン/法文化研究会編訳『イングランドの法と社会—法の歴史社会学—』（風行社、1993）

**参考文献**

定期試験 (Final examination)

**成績評価方法・基準**

授業中に実施

**学生による授業評価の方法**

高校世界史程度の知識、法学部一年次の法学一般に関する基礎知識にあわせて、西洋法史 A の修得を前提として授業を行う。英米法、法思想史、実定法制度の歴史的基礎に関心のある人にも役立ちます。

**準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連**

コモン・ロー/法学史/法文献史/法学教育史/令状登録集/訴答用例集/制定法令集/法廷年報/

EU 科目名 : Spec. Seminar of International Relations A

開講大学での科目名 : 国際関係特別演習 A 4

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学法学部	J. F. Rawlinson	2 単位	春学期

**副題**

欧州連合の発展と政策 (I)

**講義目的**

ヨーロッパの経済・政治的統合は、1952年に「石炭・鉄鋼共同体」を出発点として、1957年にEEC（欧州経済共同体）の成立を経て、1990年代以降、「マーストリヒト条約」の締結語、EU（欧州連合）として発展・深化を遂げています。また2004年と2007年に、東欧諸国を中心とする12ヶ国が加わり、27ヶ国体制へと拡大し、2011年現在17ヶ国が単一通貨ユーロを利用するようになりました。2009年12月1日に発効したリスボン条約により、EUはもっと深く統合し、外交、司法と政治協力を深化させ、組織の運営の効率性とあらゆる共同政策の分野での行為能力を高めることだけでなく、EU自体の「大統領」と「外務大臣」の誕生により本格的なグローバル・プレーヤーとなる見込みです。

本講義は、ヨーロッパの統合過程とEUの共同政策実践を紹介し、現在のヨーロッパ経済の状況と今後の課題について分かりやすく講義を行います。教員はEU委員会の部局で公務員として長年働いて来た者です。

**各回ごとの授業内容**

- I. ヨーロッパの共同発展
  1. 欧州石炭・鉄鋼共同体と欧州経済共同体
  2. 単一市場の障害の除去
  3. マーストリヒト条約と欧州連合
  4. 加盟国（6ヶ国から27ヶ国まで）拡大
  5. 経済・通貨同盟、単一通貨ユーロ
- II. EUの制度と運営
  6. 欧州委員会、理事会、欧州議会とその他の機関
  7. 法律制定の手続きから政策実践へ
  8. EU法
- III. EU政策の実践例
  9. EU域内市場規制—競争政策
  10. 経済構造—地域開発政策
  11. 重要部門—農業政策
  12. 国際貿易—貿易政策
  13. 経済統合深化—単一通貨ユーロ

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

- IV. 現ヨーロッパ経済の統合程度の差と見通し  
14. 統合の現状と見通し  
15. まとめ

**授業方法**

パワーポイント・プレゼンテーション、ディスカッション

**参考文献**

1. 辰巳浅嗣 「EU-欧州統合の現在」 2009年、ISBN978-4-422-30038-2
2. 清水嘉治、石井伸一 「新 EU 論－欧州社会経済の発展と展望」 2008年、ISBN978-4-7948-0768-7
3. 藤井良広、「EU の知識」 2010年、ISBN978-4-532-11224-0
4. 田中友義、「EU 経済論－統合・深化・拡大」 2009年、ISBN978-4-502-66640-7

**成績評価方法・基準**

平常レポート(Ordinary paper)

**準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連**

国際関係コース選択者のみ履修可能です。

**キーワード**

EU

EU 科目名 : Spec. Seminar of International RelationsB

開講大学での科目名 : 国際関係特別演習 B 3

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学法学部	J. F. Rawlinson	2 単位	秋学期

**副題**

欧州連合の発展と政策 (II)

**講義目的**

ヨーロッパの経済・政治的統合は、1952年に「石炭・鉄鋼共同体」を出発点として、1957年にEEC（欧州経済共同体）の成立を経て、1990年代以降、「マーストリヒト条約」の締結語、EU（欧州連合）として発展・深化を遂げています。また2004年と2007年に、東欧諸国を中心とする12ヶ国が加わり、27ヶ国体制へと拡大し、2011年現在17ヶ国が単一通貨ユーロを利用するようになりました。2009年12月1日に発効したリスボン条約により、EUはもっと深く統合し、外交、司法と政治協力を深化させ、組織の運営の効率性とあらゆる共同政策の分野での行為能力を高めることだけでなく、EU自体の「大統領」と「外務大臣」の誕生により本格的なグローバル・プレーヤーとなる見込みです。

本講義は、ヨーロッパの統合過程とEUの共同政策実践を紹介し、現在のヨーロッパ経済の状況と今後の課題について分かりやすく講義を行います。教員はEU委員会の部局で公務員として長年働いて来た者です。

**各回ごとの授業内容**

- I. EUの基本（春学期の復習）
  1. EUの統合深化と拡大
  2. EUの制度と運営
- II. EUの統合状況－実践例
  3. EU権力の中央集中性か各加盟国の権力
  4. 競争政策
  5. 社会・雇用政策
  6. 市場統合の不完全性
  7. 税関
  8. EU域内の人（労働力）の移動自由（シェンゲン圏－「ツースピードヨーロッパ」）
- III. EUにおける現在の重要課題
  9. ユーロ危機（1）
  10. ユーロ危機（2）
  11. 銀行の規制
  12. 経済・財政統合
  13. 契約改正と国民投票
  14. まとめ

**授業方法**

パワーポイント・プレゼンテーション、ディスカッション

**教科書**

1. 辰巳浅嗣 「EU-欧州統合の現在」 2009年、ISBN978-4-422-30038-2

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

2. 清水嘉治、石井伸一 「新 EU 論－欧州社会経済の発展と展望」 2008 年、ISBN978-4-7948-0768-7  
3. 藤井良広、「EU の知識」 2010 年、ISBN978-4-532-11224-0  
4. 田中友義、「EU 経済論－統合・深化・拡大」 2009 年、 ISBN978-4-502-66640-7

**成績評価方法・基準**

平常レポート(Ordinary paper)

**準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連**

国際関係コース選択者のみ履修可能です。

EU 科目名：Roman Law / 開講大学での科目名：ローマ法

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
大阪大学法学部	林 智良	4 単位	1 学期

**授業の目的**

ローマ法は、その高度な技術性と精密性ゆえに、母体のローマ帝国が衰亡した後も中世以降の西欧を中心に再解釈され、各国の法の中に生き続けてきた。この科目では、全体を概論と各論の二つに分けて講義を展開したい。(1) まず概論としてローマ法の歴史的発展と、その背景たる社会・国家との関わりを大きく見通してみたい。伝統的に、私法中心に語られることを通例とするローマ法であるが、それと密接に関わるものとしてローマの国制と社会の在り方にも言及したい。(2) 次いで、各論として共和政末期・古典期ローマ私法の個別問題を扱ってみたい。その内容は授業計画に記すとおりである。

**履修条件・受講条件**

特にない。

**講義内容**

I. 概論

- (1) ローマ法学習の現代的意義
- (2) ローマという社会と国家
- (3) 古代ローマ法の生成と展開(その一)・・・共和政期
- (4) 補論・・・共和政期の国制とその変遷
- (5) 古代ローマ法の生成と展開(その二)・・・元首政期・専主政期
- (6) 古代ローマ法の生成と展開(その三)・・・東西分裂期
- (7) 古代ローマ法の生成と展開(その四)・・・ユスティニアヌス帝期
- (8) 古代ローマ法の生成と展開(その五)・・・東ローマ帝国での展開
- (9) 中世以降のローマ法(その一)・・・ローマ法の復活・注釈学派
- (10) 中世以降のローマ法(その二)・・・註解学派・人文主義法学
- (11) 中世以降のローマ法(その三)・・・ドイツの歴史法学・民法典編纂と日本 民法への射影

II. 各論

- (1) ローマ法の担い手
- (2) ローマ法の体系
- (3) 手続法と実体法
- (4) 所有権・物支配
- (5) 債権
- (6) 契約
- (7) 法思想史的に見たローマ法
- (8) 全体のまとめ

**教科書**

指定しない。

**参考文献**

- ゲオルク・クリンゲンベルク『ローマ債権法講義』(大学教育出版, 2001 年)  
ピーター・スタイン『ローマ法とヨーロッパ』(ミネルヴァ書房, 2003 年)  
碧海純一他『法学史』(東京大学出版会, 1976 年)  
林智良『共和政末期ローマの法学者と社会－変容と胎動の世紀－』(法律文化社, 1997 年)  
※その他, 講義中に指示する。

**成績評価方法**

定期試験期間内に筆記試験によって行う予定である。

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

EU 科目名 : International Economic Law / 開講大学での科目名 : 国際経済法			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
大阪大学法学部	内記 香子	2 単位	1 学期
<p><b>授業の目的</b> この授業では、WTO 法の基本的な知識を身に付け、最近の時事問題への見方を養っていくことを目的としている。WTO 体制には紛争解決手続が確保されており、貿易ルールについて多くの判例がある。事例を中心にルールへの理解を深めていく。授業では毎回、レジメと参考資料を配布し、パワーポイントを使用して講義する。使用したパワーポイントのスライドとリーディングは WEBCT にアップロードする。</p> <p><b>履修条件・受講条件</b> 履修要件にはしないが、「国際法」の知識があったほうがよい。将来的に「国際経済法」を専門にしたい場合には、「国際開発法」「国際機構論」「国際人権法」「国際環境法」の履修もすすめる。</p> <p><b>講義内容</b> 第 1 回 インTRODクシヨ、 第 2 回 GATT から WTO 体制へ 第 3 回 WTO 紛争解決手続 第 4 回 内国民待遇原則その 1 第 5 回 内国民待遇原則その 2 第 6 回 例外規定 第 7 回 最恵国待遇 第 8 回 小テスト 第 9 回 貿易救済（アンチダンピング、セーフガード） 第 10 回 補助金 第 11 回 サービス貿易 第 12 回 知的財産権と貿易 第 13 - 15 回 時事問題と総まとめ</p> <p><b>教科書</b> 小寺彰＝中川淳司（編）『基本経済条約集』（有斐閣、2002）の購入をすすめる</p> <p><b>参考文献</b> 松下 満雄、中川 淳司、清水 章雄『ケースブック WTO 法』有斐閣、2009 年 UFJ 総合研究所新戦略部通商政策ユニット編『WTO 入門』日本評論社、2004 年</p> <p><b>成績評価方法</b> 小テスト 20 点、期末試験 80 点。</p> <p><b>オフィスアワー</b> メールでアポイントメントをとってください。ynaiki@osipp.osaka-u.ac.jp</p> <p><b>コメント</b> 国際通商政策には、省庁（経済産業省、外務省、農林水産省等）、弁護士、企業の法務部、NGO など、様々なアクターが関係してきます。そうしたキャリア形成に関心のある人にはぜひ履修してもらいたいです。</p>			

EU 科目名 : History of European Political Thought			
開講大学での科目名 : 西洋政治思想史			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
大阪大学法学部	竹中 浩	4 単位	2 学期
<p><b>授業の目的</b> 英米仏を中心とした近代西洋の政治思想を概観することにより、現代の法や政治の基礎にある考え方についての理解を深める。3 部から構成され、第 1 部で名誉革命にいたるまでのイングランドにおける政治と宗教の関わりを、第 2 部で名誉革命体制期イングランド・スコットランドの政治思想を、第 3 部でアメリカ独立革命及びフランス革命以降の政治思想を検討する予定である。</p> <p><b>履修条件・受講条件</b> とくにない。講義を聴くための最低限のマナーさえ身につけていればよい。高等学校の世界史 B 程度の知識を前提とするので、世界史 A しか履修していない人は少しつらいかも知れないが、この機会に西洋近代史についての知識を補ってほしい。</p>			

# Undergraduate Certificate プログラム 2011 年シラバス

## 講義内容

はじめに

### 第1部 イングランドの宗教と政治

#### 1 ピューリタン革命への道

- (1) イングランドの国制
- (2) イングランド国教会の成立
- (3) ピューリタニズムと主権論
- (4) イングランド国制の危機
- (5) ピューリタン革命

#### 2 名誉革命体制の成立

- (1) ミルトンと水平派
- (2) ハリントンの共和主義
- (3) 復古王政期のホッブズ
- (4) 復古王政から名誉革命へ
- (5) 名誉革命の正当化
- (6) 名誉革命と宗教

### 第2部 リベラリズムの政治思想

#### 1 社会契約の思想

- (1) ホッブズの人間観
- (2) ホッブズの自然状態
- (3) ホッブズの社会契約論
- (4) ロックの自然状態論
- (5) ロックの政治社会論

#### 2 文明社会の思想

- (1) 経済発展と功利主義
- (2) ヒュームとスコットランド啓蒙

### 第3部 共和主義とデモクラシー

#### 1 革命と急進主義

- (1) モンテスキューの専制政治論
- (2) アメリカ合衆国の成立と政治思想
- (3) フランス革命と政治思想
- (4) ベンサムと選挙法改正

#### 2 大衆とエリート

- (1) 民主化の進行と「多数者の専制」
- (2) J・S・ミルと自由民主主義の成立
- (3) 議会政治と大衆
- (4) 現代の政治思想

## 教科書

佐々木毅・鷺見誠一・杉田敦『西欧政治思想史』（北樹出版、1995年）

主として本書第3部（66～162頁）の内容を講じる。ただし講義の構成は教科書のとおりではない。教科書は講義を理解するための最低限の知識を提供するものである。WebCTの講義資料と併せて、あらかじめ教科書の該当する部分を読んでおくと、理解が容易になるであろう。

## 参考文献

福田歓一『政治学史』（東京大学出版会、1985年）

浜林正夫『イギリス宗教史』（大月書店、1987年）

近藤和彦編『長い18世紀のイギリス—その政治社会』（山川出版社、2002年）

## 成績評価方法

原則として試験による

## コメント

平易な説明を心がけるが、内容そのものはかなり高度なので、そのつもりで出席してもらいたい。WebCTによりかなり詳しい講義資料を事前に提供する。あらかじめ予習をして授業に臨むこと。ただし、この分野に相当の知識がある人は別として、講義に出席せず、資料だけで試験に臨むことはやめたほうがよい。

EU研究修了証プログラム（EUIJ関西）科目（歴史）

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

EU 科目名 : International Law 2 / 開講大学での科目名 : 国際法 2			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
大阪大学法学部	村上 正直	2 単位	2 学期
<p><b>授業の目的</b> 国際法 1 に引き続き、国際法の基本的知識を修得することを目的とする。</p> <p><b>履修条件・受講条件</b> 国際法 1 を受講済みであることを前提として授業をすすめる。。なお、昨年度（平成 21 年度）以前に国際法 1 を受講した者は、この国際法 2 の授業を履修することができない。</p> <p><b>講義内容</b> 国際法学の体系のうち、次のものを取り扱う。 1. 国際関係における国家機関（外交官や領事官の地位など） 2. 国際法における個人（外国人の法的地位や人権の国際的保障など） 3. 国際機構（国際機構の基本問題を主に国連を中心に講義する） 4. 条約法（条約の概念・締結手続・留保・効力など）</p> <p><b>教科書</b> 杉原高嶺他『現代国際法講義』有斐閣 次のうちのいずれか一の条約集 1. 『国際条約集』有斐閣 2. 『ベーシック条約集』東信堂 3. 『解説条約集』三省堂</p> <p><b>参考文献</b> 松井芳郎『判例国際法』東信堂</p> <p><b>成績評価方法</b> 期末試験による。</p> <p><b>コメント</b> 必ず事前にメールによって日時の調整を行うことを条件に、質問などについては、随時、研究室で対応する。</p>			

(d) Economics Module/経済科目群

EU 科目名 : Economics of Modern Technology / 開講大学での科目名 : 現代技術論			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学経済学部	田中 悟	2 単位	前期
<p><b>授業のテーマと目標</b> 現代の経済社会において、技術革新は極めて重要な役割を演じている。本講義では、技術革新とそれに関連する諸制度に関する経済分析を産業組織論の観点から展望する。企業による多様な行動（たとえば研究開発活動・ライセンス活動・特許戦略等）がどのように技術革新と関連し、また技術革新を促そうとする制度（知的財産権制度・技術政策）が経済社会にどのような効果をもたらすのか、という問題に対する経済学的知見を修得することが本講義の目的となる。</p> <p><b>授業の概要と計画</b> 授業は講義形式で行われる。上記の目標を達成するために、以下の順序で講義を行う予定である。 1. Introduction 2. 市場構造と研究開発活動・技術革新 3. 知的財産権制度の経済分析 4. 技術知識をめぐるコーディネーションとその効果 5. デジタル化と知的財産権制度</p> <p><b>成績評価方法と基準</b> 授業中に課す課題（20%）と定期試験の結果（80%）によって評価する。</p> <p><b>履修上の注意（関連科目情報等を含む）</b> 初歩的な微分法の知識を前提条件として授業を行う。また、理解を深めるために、応用ミクロ経済学ないしは産業組織論に関わる授業科目の履修が望まれる。</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

**オフィスアワー・連絡先**

連絡先等については、授業中に説明する。

**学生へのメッセージ**

経済学の勉強は積み重ねの要素が強いので、授業に出席して的確に授業内容を理解することが望ましい。

**教科書**

特に指定しない。

**参考書・参考資料等**

\* 他の参考書については、適宜授業中に指示する。

『知財創出：イノベーションとインセンティブ』/スザンヌ・スコッチマー著/青木監修・安藤訳/  
日本評論社/2008 年

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

技術革新、知的財産権制度

EU 科目名 : Russian and East European Economies

開講大学での科目名 : ロシア・東欧経済論

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学経済学部	吉井 昌彦	2 単位	前期

**授業のテーマと目標**

この講義のテーマは、ロシア・中東欧諸国という旧社会主義諸国の市場経済移行（転換）である。社会主義経済システムとはどのようなものであったのか、なぜ崩壊しなければならなかったのかから出発して、市場経済システムへの移行とは何か、過去 20 年間の市場経済システムへの移行はどのような形で進んできたのか、その到達状況はどのようなものか、どこへ向かおうとしているのか、を考えることを直接の目標とする。市場経済移行は中国などでも行われているが、本講義では、ロシア（旧ソ連）・中東欧諸国の市場経済移行を取り上げる。また、市場経済移行を通して我々が暮らす市場経済システムとはどのようなものかを見直すこともあわせて視野に入れていきたい。

本講義を履修することで、ロシア・旧ソ連、中・東欧諸国の市場経済移行の経験を知るとともに、市場経済システムの多様性を理解することができるようになる。〔EUIJ 科目〕

**授業の概要と計画**

第 1 章 ロシアを含めた旧ソ連諸国、中・東欧諸国とはどのような国なのか。

第 2 章 社会主義経済システムとはどのような経済システムだったのか。

第 3 章 市場経済システムへの移行とは何か。

第 4 章 市場経済移行の進展

第 5 章 移行諸国の現状

第 6 章 移行諸国の今後

**成績評価方法と基準**

原則として期末試験により成績評価を行う。受講生数に依存するが、講義の理解度を測るため、Questionnaires を提出してもらうことがある。

**履修上の注意(関連科目情報等を含む)**

(1) 一般的注意

単に一方的に講義をするだけでなく、予習をしているか、講義内容を理解しているかなどをチェックするため、頻繁に受講生に質問をするつもりである。予習の上、集中して講義に出席して欲しい。

(2) 講義ノート

講義ノート(ワード版)を教務情報システムの掲示板に掲載していくので、ダウンロードし印刷の上、講義に出席のこと。

(3) 受講に必要な知識

経済システムの多様性を理解する上でミクロ経済学の講義を、また 90 年代以降の市場経済移行国の経済パフォーマンスを理解するうえでマクロ経済学のそれぞれ基礎的な知識を持っていることが望ましい。

ロシア語等、現地語の知識は必要としない。

**オフィスアワー・連絡先**

オフィス・アワーは特に設けないので、講義時間中・終了後に質問するか、メールで質問を送ること  
(yoshi i \*econ. kobe-u. ac. jp (\*→@))

**学生へのメッセージ**

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

この講義は、一つには、社会主義経済システムという学生諸君には実感のない経済システムから市場経済システムへの移行を扱う。第二には、ロシアを含めた旧ソ連諸国、中・東欧諸国という、それほどなじみのない国々の経済問題を取り扱う。この2つの意味で、講義を受動的に聞くだけでなく、書物、論文、新聞、テレビ、その他様々なメディアを通じて講義内容を積極的に身近に感じて欲しい。

同じく市場経済移行を進めてきた中国経済論、中・東欧諸国の EU 加盟を考えるためのヨーロッパ経済論など、比較経済政策の講義をあわせて受講して欲しい。

**今年度の工夫**

過去 20 年間の市場経済移行の経験だけでなく、2008 年のグローバル金融危機への対応を含め、ロシアと中・東欧諸国の現状の相違を講義内容に加えたい。

**教科書**

以下のテキストを使用の予定である。ただし、出版が若干遅れる可能性がある。

ロシア経済論/吉井昌彦・溝端佐史編著/ミネルヴァ書房/2011 年 4 月

**参考書・参考資料等**

以下の参考文献は確実に目を通してもらいたい。その他の参考文献については、後日掲示する予定である。

ロシア経済論（経済学学習のために 平成 23 年度前期）/吉井昌彦/神戸大学経済経営学会/2011 年

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

ロシア 中・東欧 市場経済移行

EU 科目名 : Economic Geography / 開講大学での科目名 : 経済地理学

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学経済学部	中川 聡史	2 単位	後期

**授業のテーマと目標**

経済的現象が場所によって異なるという事実注目し、その要因を明らかにすることが経済地理学の主要な課題です。経済地理学の基本的な考え方を理解することを目標にします。

**授業の概要と計画**

序 場所の価値とは

1. 場所のチカラと企業の成長戦略
2. 立地競争と均衡立地・最適立地
3. 集中化・分散化と立地
4. ネットワークと立地
5. 産業集積と立地
6. 商業集積と立地
7. 立地ウォーズ

**成績評価方法と基準**

期末試験によって評価します

**履修上の注意(関連科目情報等を含む)**

図表、著図、写真を多用しますので、授業はパワーポイントを用いておこないます。授業に関する情報は主に web を通じて連絡します。全学共通科目(共通専門科目)の「地理学」を履修していると理解しやすいでしょう。

**オフィスアワー・連絡先**

メール : nakagawa[at]econ.kobe-u.ac.jp

web : http://www.econ.kobe-u.ac.jp/~nakagawa/

**学生へのメッセージ**

「所変われば品変わる」ということわざをより深く理解しましょう。教科書の記述に、神戸などの事例を加えることで理解を深めてもらうと同時に、神戸や関西の現状について考えて欲しいと思います。

**今年度の工夫**

授業アンケートにもとづく改善として、受け身ではなくできるだけ主体的に授業に取り組んでもらえるようパワーポイントの作り方を前年度よりも工夫します。また、教科書から離れた話を増やすようにします。

**教科書**

立地ウォーズ / 川端基夫 : 新評論, 2008, ISBN:

**参考書・参考資料等**

経済地理学入門(新版) / 山本健児 : 原書房, 2005, ISBN:

**授業における使用言語**

日本語

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

キーワード

立地論 産業集積 ネットワーク

EU 科目名 : Advanced Finance / 開講大学での科目名 : 上級ファイナンス			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学経済学部	岩壺 健太郎	2 単位	後期
<p><b>授業のテーマと目標</b> 証券投資理論に焦点を当てた講義を行います。欧米の MBA（経営大学院）の講義で使用されているテキストを利用して、証券投資に関する基本的な理論と実証を解説します。（EUIJ 科目）</p> <p><b>授業の概要と計画</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、証券取引の方法</li> <li>2. ポートフォリオ理論、分散投資のメリット</li> <li>3. 資本市場における均衡、CAPM、APT</li> <li>4. 効率性仮説と株価の予測可能性</li> <li>5. アノマリーと行動ファイナンス</li> <li>6. C-CAPM</li> <li>7. 確定利付証券、金利の期間構造</li> <li>8. オプション、先物、金融派生商品</li> </ol> <p><b>成績評価方法と基準</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 期末試験（70%）、宿題（30%）で評価します。</li> <li>2. 5 回ほど宿題を出します（おおよそ隔週）。</li> </ol> <p><b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ファイナンスを理解するためには、経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識が必要です。特に経済数学とミクロ経済学を十分に理解している学生を対象とします。</li> <li>2) 欠席すると分からなくなるので、ほぼ毎回出席できる人のみ受講してください。</li> </ol> <p><b>オフィスアワー・連絡先</b> 木曜日 2 限 (10:40-12:10) 研究室 (第 2 学舎 4F401) 事前に質問内容をメールしてください (iwatsubo*econ.kobe-u.ac.jp (*→@))。</p> <p><b>学生へのメッセージ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業での配布資料は教員の HP に公開します。</li> <li>2) 受講生の理解度に合わせて授業の進め方を調整しますので、質問や注文を歓迎します。</li> <li>3) 教科書だけでは理解しにくいときは、別の参考書を読んでください。同じものでも別の角度から見ると分かりやすくなることが多いです。</li> </ol> <p><b>今年度の工夫</b> 理論の理解に不可欠な数式が難しいときはプリントを配布します。</p> <p><b>教科書</b> 証券投資 上 / ツヴィ・ボディノ／アレックス・ケイン／アラン・マークス／堀内昭義 : 東洋経済新報社, 2003 年, ISBN:978-4492731680</p> <p><b>参考書・参考資料等</b> ファイナンス論 - 入門から応用まで / 大村 敬一 : 有斐閣, 2010 年, ISBN:978-4641183834 新証券投資論 1 / 小林孝雄・芹田敏夫 : 日本経済新聞出版社, 2009 年, ISBN:978-4532133726</p> <p><b>授業における使用言語</b> 日本語</p> <p><b>キーワード</b> 証券投資 株式 債券 オプション CAPM APT</p>			

EU 科目名 : Theory of Money / 開講大学での科目名 : 貨幣論			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学経済学部	藤田 誠一	2 単位	後期
<p><b>授業のテーマと目標</b> 貨幣、国際通貨に関する基本的な理論を学び、現代の「おカネ」を巡る動きを理解できるようになる。（EUIJ 科目）</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

**授業の概要と計画**

前半では貨幣・銀行・国際通貨に関する基本的な理論・歴史を講義し、後半では、電子マネー、ドル化・ユーロ化、共通通貨ユーロ、国際通貨システムの改革など現代の問題を講義する。

第1章 貨幣と信用

第2章 決済システムと銀行

第3章 国際決済と国際通貨

第4章 電子決済と銀行システム：電子マネーとは何か

第5章 欧州単一通貨ユーロ：大いなる挑戦

第6章 国際通貨システムの展望

**成績評価方法と基準**

期末試験により評価する。

**履修上の注意(関連科目情報等を含む)**

特になし。

**オフィスアワー・連絡先**

特に設けないが、質問はメールで受け付ける。fujita@econ.kobe-u.ac.jp

**学生へのメッセージ**

「おカネ」を巡る諸問題を、理論的・歴史的な視点から考えてみましょう。

**今年度の工夫**

出来るだけ具体的な数字、例などを用いて講義したいと考えています。

**教科書**

テキストは指定しないが、参考図書・文献は講義の中で随時紹介する。

**参考書・参考資料等**

参考図書・文献は講義の中で随時紹介する。

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

貨幣、銀行、国際通貨、電子マネー、ユーロ

EU 科目名：EU and Contemporary European Economics B(2008)

開講大学での科目名：経済事情 B (2008) (EU と現代ヨーロッパ経済 B(2008))

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学経済学部	吉川 真裕	2 単位	秋学期

**副題**

ヨーロッパ各国経済事情

**講義目的**

ヨーロッパ経済を論じるとき EU 抜きには語れない。しかし、ヨーロッパ各国の経済は均質ではなく、EU のみを取り上げ、各国の事情を省みないのも問題である。この授業ではヨーロッパ主要国の経済状況を明らかにすることでヨーロッパ経済に対する理解（ひいては日本経済に対する理解）を深め、ヨーロッパ主要国経済の特徴を把握できるようになることを目標とする。

**各回ごとの授業内容**

1~2. イギリス経済

3~4. ドイツ経済

5~6. フランス経済

7. イタリア経済

8. スペイン経済

9. オランダ経済

10. ベルギー経済

11. スウェーデン経済

12. スイス経済

13. ポーランド経済

14. 展望

**授業方法**

板書を多用する講義形式。

時間があればビデオ視聴も採り入れたい。

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

質問を歓迎し、授業中に答えていきたい。

**教科書**

田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治『現代ヨーロッパ経済(新版)』(有斐閣、2006)。

**参考文献**

『ARC レポート』各国版(ARC 国別情勢研究会)。  
村上直久(編)『EU情報事典』(大修館書店、2009)。  
白井さゆり『欧州迷走』(日本経済新聞社、2009)。  
EUインスティテュート関西『EUの大研究』(PHP研究所、2007)。  
小川有美編『EU諸国』(自由国民社、1999)。  
原輝史・工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』(有斐閣、1996)。  
中村靖志『現代のイギリス経済』(九州大学出版会、1999)。  
日本経済新聞社『イギリス経済再生の真実』(日本経済新聞社、2007)。  
ラリー・エリオット・ダン・アトキンソン『市場原理主義の害毒 イギリスからの眺め』(PHP研究所、2009)。  
古谷博之『現代ドイツ経済の歴史』(東京大学出版会、2007)。  
栗原毅『ユーロ時代のフランス経済』(清文社、2005)。  
榊原英資『フレンチ・パラドックス』(文藝春秋、2010)。  
長坂寿久『オランダ・モデル』(日本経済新聞社、2000)。  
湯元健治・佐藤吉宗『スウェーデン・パラドックス』(日本経済新聞社、2010)。  
木村武雄『EUにおけるポーランド経済』(創成社、2009)。

**成績評価方法・基準**

定期試験(Final examination)

**学生による授業評価の方法**

原則として定期試験によって評価する。

試験は基本的な事柄の理解を問う問題群(50点)とテーマを定めて解答用紙裏面全体で答えてもらう論述問題(50点)を予定している。

**学生による授業評価の方法**

学期末のアンケート

**準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連**

関心を持ったテーマについては自ら調べてみることをお勧めする(試験の際の論述問題に役立つはずである)。なお、経済事情A(2008)ではEUとヨーロッパ経済全体を扱うので、この科目と合わせて受講すれば、ヨーロッパ経済に関する理解がより深まるものと考えられる。

**キーワード**

サービス産業化/外資系企業/共同決定/政府の関与/フレキシブル・スペシャライゼーション/ワークシェアリング/地域間逆転/福祉国家システム/経済自由主義/市場経済への移行

EU 科目名 : Economies, Industries and Business Enterprises in Europe

開講大学での科目名 : ヨーロッパの経済と企業

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学経済学部	J. F. Rawlinson	2 単位	秋学期

**講義目的**

ヨーロッパの経済・政治的統合は、1952年に「石炭・鉄鋼共同体」を出発点として、1957年にEEC(欧州経済共同体)の成立を経て、1990年代以降、「マーストリヒト条約」の締結語、EU(欧州連合)として発展・深化を遂げています。また2004年と2007年に、東欧諸国を中心とする12ヶ国が加わり、27ヶ国体制へと拡大し、2011年現在17ヶ国が単一通貨ユーロを利用するようになりました。2009年12月1日に発効したリスボン条約により、EUはもっと深く統合し、外交、司法と政治協力を深化させ、組織の運営の効率性とあらゆる共同政策の分野での行為能力を高めることだけでなく、EU自体の「大統領」と「外務大臣」の誕生により本格的なグローバル・プレーヤーとなる見込みです。

本講義は、ヨーロッパの統合過程とEUの共同政策実践を紹介し、現在のヨーロッパ経済の状況と今後の課題について分かりやすく講義を行います。教員はEU委員会の部局で公務員として長年働いて来た者です。

**各回ごとの授業内容**

EUの基本(春学期の復習)

1. EUの現在事情
2. EUの制度と運営

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

<p>EU の活動分野と政策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 競争政策</li> <li>4. 地域開発政策</li> <li>5. 社会・雇用政策</li> <li>6. 環境政策</li> <li>7. エネルギー政策</li> <li>8. 農業政策</li> <li>9. 外国貿易政策、外交</li> <li>10. EU 域内の人（労働力）の移動自由、移民政策</li> <li>11. 経済・財政統合 ユーロ (1)</li> <li>12. 経済・財政統合 ユーロ (2)</li> </ol> <p>EU の発展と見とおし</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 経済・政治的な統合深化</li> </ol> <p>まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>14. まとめ</li> </ol> <p><b>参考文献</b>          清水嘉治、石井伸一 「新 EU 論 欧州社会経済の発展と展望」 2008 年          藤井良広、「EU の知識」 2010 年          田中友義、「EU 経済論 統合・深化・拡大」 2009 年</p> <p><b>成績評価方法・基準</b>          定期試験 (Final examination)  <b>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連</b>          予習と復習を欠かさないこと</p> <p><b>キーワード</b>          ヨーロッパ経済、EU 拡大と深化</p>
--

EU 科目名 : Economies and Business Management in Europe			
開講大学での科目名 : Economies and Business Management in Europe			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学国際学部	Holger Robert Bungsche	2 単位	春学期
<p><b>講義目的 / Course Objective</b>                  Europe provides a very unique business and economic environment. On the one hand the language, societal and cultural differences, which exert considerable influence on business organizations, management styles and regional market conditions, continue to exist; on the other hand, however, the still proceeding integration process of the European economies, which began over 50 years ago, has in fact resulted in the formation of a single European market and in common economic, legal, and institutional structures. The lecture will provide an in depth insight into the process of the economic integration of Europe, the legal and institutional framework of the EU, as well as the main areas of the common European economic policy. In addition to that, case studies will make students familiar with the different business and management cultures as well as with specific regional economic characteristics in Europe.</p> <p><b>各回ごとの授業内容 / Course Content</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. The European Union and Europe's economy</li> <li>2. European integration and enlargement 1: From Rome to Maastricht</li> <li>3. European integration and enlargement 2: From Maastricht to Lisbon</li> <li>4. The functioning of the European Union: Institutions and decision making processes</li> <li>5. The common agricultural policy: From butter mountains and wine lakes to the world market</li> <li>6. The industrial policy of the EU: From Airbus to Ships 21</li> <li>7. The competition policy of the EU</li> <li>8. The EU energy and traffic policies</li> <li>9. The EU environmental policy: From exhaust fume standards to emission trading</li> <li>10. European enterprises and EU policies: Corporate governance and corporate laws in Europe</li> <li>11. The European Central Bank and the common European currency: From EMS to the Euro crisis</li> <li>12. Towards a social Europe: Labour market policies in the EU</li> <li>13. Characteristics of regional economies in Europe 1</li> </ol>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

<p>14. Characteristics of regional economies in Europe 2 15. Europe's economy and globalization Other Remarks: Powerpoint presentation and discussion <b>教科書 / Textbooks</b> Rifkin, Jeremy, The European Dream, New York, Penguin, 2004 Pelkmans, Jacques; Hanf, Dominik; Chang, Michele (eds.), The EU internal market in comparative perspective: economic, political and legal analyses, New York, Peter Lang, 2008 <b>成績評価方法・基準 / Grading Policy</b> 定期試験 (Final examination) <b>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連 / Requirement・Prerequisite</b> To be announced when necessary <b>キーワード / Keywords</b> EU economy, EU integration, European national economies</p>
---

EU 科目名 : Economies, Industries and Business Enterprises in Europe			
開講大学での科目名 : Economies, Industries and Business Enterprises in Europe			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学経済学部	Holger Robert Bungsche	2 単位	秋学期
<p><b>副題</b> 50 年以上の経済の統合の深化と拡大を経て、EU (欧州連合) は 2009 年現在 27 ヶ国で構成され、その内 16 ヶ国がヨーロッパの単一通貨ユーロを利用し、途上国の中国とインドを除き、人口約 5 億人の世界最大の単一市場となった。こうした国境が完全に無くなり、人、財、サービスと資本の自由移動を実現した EU の単一市場は企業経営のあり方に様々な特徴をもたらしてきた。本講義はヨーロッパの代表的な産業である自動車産業を例として、ヨーロッパの経済と企業経営独特のビジネス環境を説明し、欧州自動車産業の構造と特徴、ヨーロッパの自動車グループと各ブランドの発展過程、そして EU 経済の拡大に伴う競争条件の変化と欧州域内企業の対応について、競争戦略論の視点から考察を加え分かり易く解説します。</p> <p><b>講義目的</b></p> <p>I. ヨーロッパ自動車産業の基本 :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヨーロッパにおける自動車産業 : 規模、OEM と部品メーカー</li> <li>2. ヨーロッパ自動車産業の発展史</li> <li>3. ヨーロッパの自動車産業と生産方式 : フォードから VW5000 まで</li> </ol> <p>II. EU と自動車産業 :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. EU の深化と拡大に変わる経済と企業環境</li> <li>5. EU の自動車産業政策 : EU の産業、競争、社会政策と環境政策</li> <li>6. 21 世紀の EU と自動車産業 : CARS 21 のプログラム</li> </ol> <p>III. ヨーロッパ自動車産業の国際化 :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. EU の自動車産業の 90 年代 : 商品と製造構造変更、新企業とモデル戦略、新市場への進出</li> <li>8. ケース・スタディ (1) : プレミアムメッカーへの道 - BMW とアウディ</li> <li>9. ケース・スタディ (2) : フォルクスワーゲン             <ul style="list-style-type: none"> <li>- ドイツ国民自動車メーカーからグローバル・ブランド支配企業への道</li> </ul> </li> <li>10. ケース・スタディ (3) : フランスとイタリアの自動車メーカー             <ul style="list-style-type: none"> <li>- ナショナル・チャンピオンと国際戦略苦難</li> </ul> </li> </ol> <p>IV. EU の中東欧拡大とヨーロッパ自動車産業における競争激化 :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 中東欧と自動車産業 : 伝統的産業の復活</li> <li>12. ケース・スタディ (4) : 伝統的なブランドの回復と低価格戦略             <ul style="list-style-type: none"> <li>- チェコのシュコダ自動車とルーマニアのダチア自動車の比較</li> </ul> </li> </ol> <p>V. ヨーロッパ自動車産業のグローバル戦略 : 買収・合併、生産ネットワーク、と今後の挑戦</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. ケース・スタディ (5) : プレミアム・メーカーの合併の失敗 : ダイムラーと BMW の比較</li> <li>14. ケース・スタディ (6) : グローバル生産・販売ネットワークの創立             <ul style="list-style-type: none"> <li>- ルノーと日産のアライアンスとフォルクスワーゲン・グループの比較</li> </ul> </li> <li>15. 21 世紀におけるヨーロッパの自動車産業 : 持続可能な発展の要求とプレミアム戦略の間に</li> </ol> <p><b>授業方法</b> パワー・ポイント・プレゼンテーション、比較的なケース・スタディ</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

<p><b>教科書</b></p> <p>1. ブングシェ・ホルガー：EUの拡大・深化とヨーロッパ自動車産業。In:海道ノブチカ（編著）：EU 拡大で変わる市場と企業、日本評論社、2008 年。</p> <p>2. Furukawa, Sumiaki; Schmidt, Gert (ed.): The Changing Structure of Automotive Industry and the Post-Lean Paradigm in Europe. Kyushu University Press, 2008.</p> <p>3. EU Institute in Japan Kansai: New Developments in the European Automobile Industry. Workshop September 29th, 2007. EU Institute Japan, Kansai, 2008.</p> <p>4. Freyssenet, Michel et al. Globalization or Regionalization of the European Car Industry? Palgrave. 2003</p> <p>5. 田中素香（他）、現代ヨーロッパ経済、有斐閣、2006 年（新版）</p> <p>6. Laux, James, The European Auto Industry, Twayne 1992</p> <p><b>成績評価方法・基準</b> 定期試験 (Final examination) <b>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連</b> 必要に応じて指示 <b>キーワード</b> EU 経済、EU 自動車産業、企業経営と利益戦略</p>
--

EU 科目名：International Finance / 開講大学での科目名：国際金融			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
大阪大学経済学部	高木 信二	4 単位	1 学期
<p><b>授業の目的</b> 国際金融の諸問題を理解する上で必要な開放マクロ経済学の理論、国際通貨制度の枠組みと歴史を学ぶ。</p> <p><b>履修条件・受講条件</b> 中級レベルのマクロ経済、ミクロ経済の知識。</p> <p><b>講義内容</b> 以下のトピックをとりあげる。(1) 開放経済の対外経済取引 (2) 外国為替市場と為替レート (3) 為替政策と金融政策の独立性 (4) 為替制度のあらまし (5) 外国為替市場の長期的均衡 (6) 外国為替市場の短期的均衡 (7) 為替レート期待と外為市場の効率性 (8) 為替市場介入とポートフォリオ・バランス (9) 為替レートと国際収支の調整 (10) 為替レートとマクロ経済 (11) 国際資本移動と国際資本市場 (12) 国際収支危機 (13) 新しい国際通貨制度の枠組み (14) その他、グローバル金融危機など、最近の重要テーマ。</p> <p><b>教科書</b> 高木信二『入門国際金融』（第4版）日本評論社、2011年。</p> <p><b>参考文献</b> 追加的な資料を授業で指示することがある。その場合、WebCTにアップロードする。</p> <p><b>成績評価方法</b> 中間試験 45% 期末試験 45% 授業参加 10% (ただし、国際金融のテーマに関して12000字程度のタームペーパーを書くことを希望する学生については、中間試験および期末試験の割合を15%ずつ減らし、30%をタームペーパーに当てる。) 出席は毎月1度程度とり、1回の欠席につき2.5を最終評価より減点する。</p> <p><b>コメント</b> ゲストスピーカーとして、国際金融の実践に従事する専門家(外国人を含む)に講義をお願いすることがある。アメリカの一流大学のような双方向教育が理想だと考えているので、積極的な授業参加を歓迎する。すべての学生が授業までに教科書を読んできて、授業を議論や内容の発展の場にしたいと望むのは非現実的であろうか。</p>			

(e) Science and Technology Module/科学・技術科目群

EU 科目名：History of European Science and Technology			
開講大学での科目名：教養原論：科学史			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

神戸大学全学共通授業科目	三浦 伸夫 (月曜日 1 時限)	2 単位	前期
<p><b>授業のテーマと目標</b> 古代中世数学史入門[EUIJ 科目]</p> <p><b>授業の概要と計画</b> 西欧における数学的アイデアの源泉をみることによって、数学とその背景の文化を理解する。数学の内容にもかなり踏み込んで講義する。 古代エジプトの計算法 エウクレイデスの論証法 アルキメデスの方法 アポロニオスの円錐曲線 フーリエの代数学 高次方程式の解法</p> <p><b>成績評価方法と基準</b> 出席：最終テスト＝2：8</p> <p><b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b> 高等学校程度の世界史の知識が必要です。また古代中世なので高等数学（微積分学）ではありませんが、かなりの論理的思考が必要となります。</p> <p><b>オフィスアワー・連絡先</b> メールにて事前に時間の調整が必要ですが、科学史について相談することは歓迎します。</p> <p><b>参考書・参考資料等</b> カツ 数学史 / : 共立出版 , , ISBN:</p> <p><b>授業における使用言語</b> 日本語</p> <p><b>キーワード</b> 数学史 科学史</p>			

EU 科目名 : History of European Science and Technology			
開講大学での科目名 : 教養原論 : 科学史			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学全学共通授業科目	三浦 伸夫 (火曜日 1 時限)	2 単位	前期
<p><b>授業のテーマと目標</b> 西洋数学文化史[EUIJ 科目]</p> <p><b>授業の概要と計画</b> 西洋における数学文化の成立と展開を、オリエントも視野においてみていく。 古代 (エジプト、バビロニア) 古代ギリシャ アラビア イタリア・ルネサンス 数学の内容はもちろん、それを取り巻く環境、数学の位置づけを見ながら、数学文化の展開を紹介し、数学の社会的文化的役割を見る。</p> <p><b>成績評価方法と基準</b> 期末レポート：出席＝8：2 レポートはかなりの分量を課する予定なので、その覚悟のある学生のみが受講すること。</p> <p><b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b> 数学的内容も踏み込んで進めていくが、近代以前の数学なので、高等数学（微積分学）はまったく必要ない。むしろ世界史の常識が前提となります。</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

**オフィスアワー・連絡先**

随時（ただし事前連絡必要です）

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

西洋文化史、数学史、古代中世史

EU 科目名 : History of European Science and Technology

開講大学での科目名 : 教養原論 : 科学史

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学全学共通授業科目	三浦 伸夫（月曜日 2 時限）	2 単位	後期

**授業のテーマと目標**

西洋近代数学の展開

17 世紀は近代数学の飛躍的発展期であった。本講義はとりわけ微積分学の成立と発展について、数学的内容を具体的に見ていく。[EUIJ 科目]

**授業の概要と計画**

1. 古代中世の伝統
2. ケプラー
3. フェルマ
4. 代数学の伝統
5. ニュートン I-III
6. ライプニッツ I-III
7. 18 世紀の数学 I-II

**成績評価方法と基準**

期末テストで判定します。

**履修上の注意(関連科目情報等を含む)**

具体的数学内容に触れながら講義を進めますので、数学に関心のある学生の参加を期待します。微積分学の知識は高等学校の初歩的なもので十分ですが、様々な計算を具体的にすることになりますので、その覚悟が必要です。

**オフィスアワー・連絡先**

随時（ただし事前連絡必要です）

**参考書・参考資料等**

カッツ数学史 / V. カッツ : 共立出版社, , ISBN:

数学史 / 佐々木力 : 岩波書店, 2010, ISBN:

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

微積分学、数学史、ニュートン、ライプニッツ

EU 科目名 : European Modern Architecture / 開講大学での科目名 : 近代建築史

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学工学部	足立 裕司	2 単位	前期

**授業のテーマと目標**

ヨーロッパの近代社会から近代建築が成立していく過程を、社会史、思想史、芸術史及び技術史等の背景との関連から考察し、それがどのように現代建築の礎を築くに至ったかを理解することを目的とする。

到達目標 :

近代建築という領域を形づくる様々な要因を理解し、建築を総合的に捉えることができる歴史的な視野を涵養する。形式的な理解ではなく、建築家がどのような理念、思想の下に新しい建築を創造するに至ったか、また新しい建築理念と形態はどのような整合性をもって意図されているかを考える能力を身につける。

**授業の概要と計画**

1. 近代建築とは何か : 講義の視点と現代との関連
2. バロック建築の展開

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

<p>3. ルネサンス建築の伝播 4. 新古典主義と歴史主義：ロマン主義とアカデミズム 5. 産業革命下の建築：新しい建築技術と建築形式 6. アーツ・アンド・クラフツ運動：建築・デザインと職能倫理 7. アール・ヌーヴォーと建築：大衆と都市文化 8. ドイツ工作連盟の理念と建築 9. 造形の革新：未来派、デ・スティール、ロシア構成主義 10. バウハウスの建築理念 11. モダニズムの形成と理論 12. モダニズムの伝播と現代建築への展開 13. 現代建築の課題</p> <p>授業の進め方： 講述だけでなく、必要に応じて画像・映像を用い、概念的な理解だけではなく視覚的な理解も重視する。</p> <p><b>成績評価方法と基準</b> 学期末の試験と何度かのレポートを参考にして評価する。特に思考能力の有無を評価する。</p> <p><b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b> 西洋建築史を引き継いで講義を行うので、同科目を履修していることが望ましい。思想史、理念史、芸術・造形史としての性格が強くなるので、必要に応じて自己学習が求められる。その都度参考図書を紹介しているので、できるだけ自分で本を読む習慣をつけ、自分の考えを形成できるようにしてほしい。</p> <p><b>オフィスアワー・連絡先</b> オフィスアワーの日時は授業開始時に通知します。</p> <p><b>学生へのメッセージ</b> 現代に直接つながる設計思想を形成した時期であり、建築家の作品と志向がどのように関連しているのかを、自己の設計活動を通じて考えてほしい。</p> <p><b>教科書</b> 日本建築学会編『近代建築史図集』 近代建築史図集 / 日本建築学会：，，ISBN： <b>参考書・参考資料等</b> なし</p> <p><b>授業における使用言語</b> 日本語</p> <p><b>キーワード</b> 近代建築 パロック建築 新古典主義建築 産業革命 モダニズム 現代建築</p>
--

EU 科目名：Science and Technology in Europe / 開講大学での科目名：政策課題研究 A			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学総合政策学部	中野 幸紀	2 単位	春学期
<p><b>副題</b> 「ヨーロッパにおける科学技術と研究開発政策」</p> <p><b>講義目的</b> 近代欧州において発展・蓄積されてきた科学技術は、その合理的思考、客観的手続き、実験による再現性を重視する点で、総合政策立案の基礎として最も重要である。21 世紀の現在もなおヨーロッパは人文、社会科学を含む先端科学技術分野の研究開発拠点でありつづけている。こうしたヨーロッパ近代の科学技術発展の歴史と EU の研究開発政策について紹介する。最後に科学技術との共生を模索し続けるヨーロッパ市民社会の動きについて触れる。</p> <p><b>各回ごとの授業内容</b> (1) イントロダクション (ヨーロッパ誕生と科学技術の誕生) (2) 科学技術の遺伝子 (ギリシャ・ローマ～中世) (3) ルネッサンスと近代科学の成立 (4) EU 研究開発政策の初期成立過程 (5) EU 研究開発政策の萌芽期 (ECSC から EURATOM/JRC まで) (6) EU 研究開発政策の一本化 (COST から CREST まで) (7) EU 産業競争力強化プログラム (FP 成立) (8) EU 科学技術政策の現状と展望 (9) 科学と産業技術の接近/共鳴 (市民生活に直結する科学技術)</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

- (10) フランスの科学技術 (TGV、原子力発電からエアバス A380 まで)
- (11) コンピュータ開発国家プロジェクトと電子産業の衰退
- (12) フランスのエネルギー政策 (安定供給と需要管理政策)
- (13) 原子力発電とパブリックアクセプタンス (ユニヴァーサルサービスと安全安心)
- (14) EU 市民の健康・安全確保、環境規制と技術標準参照政策
- (15) ヨーロッパ市民社会が支える科学技術基盤 (NPO の役割)

**授業方法**

授業は講義形式で進める。授業時間中に Q & A 形式の予習・復習作業の時間をできるだけ設ける。EU での現在進行形の議論を紹介するため、適宜、ゲストスピーカーを招くことがある。

**教科書**

LUNA に毎回の授業レジュメを掲示し、使用する。

**参考文献**

- F. キャロン著・原輝史監訳『フランス経済史』(早稲田大学出版部、1983)
- 菅野昭正・木村尚三郎他編『読む事典フランス』(三省堂、1990)
- 長部重康・田中友義編著『統合ヨーロッパの焦点』(日本貿易振興会、1998)
- 関谷一彦・細見和志・山上浩編著『はじめて学ぶフランス』(関西学院大学出版会、2004)

**成績評価方法・基準**

定期試験に代わるリポート(Term paper to replace the final examination)

授業出席状況、授業中の小レポート及び期末レポートによって総合的に評価する。

**学生による授業評価の方法**

授業中実施

**準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連**

EU/関西履修科目であるので EU サーティフィケート取得を目標にがんばっていただきたい。欧州統合に関する基本的な学習をしておくことが望ましい。

**キーワード**

ヨーロッパ/EU/研究開発政策/科学技術/産業技術/技術革新/市民社会/宇宙航空/原子力/コンピュータ/標準化

EU 科目名 : European Information and Communication Industry

開講大学での科目名 : 政策課題研究 E

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学総合政策学部	中野 幸紀	2 単位	秋学期

**副題**

ヨーロッパの情報通信産業と政策

**講義目的**

EU の情報通信技術分野における域内市場統合 (通信・放送方式の統合)、産業競争力強化 (情報技術の開発) などの政策とそれらの歴史的展開過程を学ぶ。それによって、21 世紀の社会経済発展モデルのひとつとなりうる「EU 型混合経済」における政府と市場の役割について理解を深める。

**各回ごとの授業内容**

1. 情報通信技術体系の特徴と米国と EU 間の技術格差の概要
2. 欧州情報市民社会建設の原点と理念 (デジタルデバイドと人権)
3. 欧州情報通信産業のルーツと現状 (電信網構築から HD-TV 地上波放送の開始)
4. 欧州製コンピュータ技術開発の蹉跎 (Bull 社の破綻)
5. デジタル回線交換とパケット交換電子ネットワークの構築
6. ソーシャルネットワークとしてのミニテルの出現と普及
7. EU 情報市民社会が直面した困難と課題 (米国発のインターネット受け入れへ)
8. EU の情報通信企業紹介 (ICL、Siemens、Alcatel、Ericson、テレコム各社など)
9. EU 情報通信技術開発政策の展開 (Esprit から FP7 へ)
10. EU の情報通信技術の標準化と自由貿易 (WTO/TRIP/TBT)

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

<p>11. フランス・メディア産業（フランスの新聞・雑誌など） 12. ヨーロッパのラジオ放送（放送の国営化とその利用権） 13. EU の情報社会イニシアティブ（i2010 戦略） 14. EU 情報通信産業の自由化と民営化 15. 政府主導か企業主導か？（ユニバーサル・サービス提供プロセスの米欧比較分析）</p> <p><b>授業方法</b> 授業は講義形式で進める。授業時間中に授業内容をより深く理解するための質疑時間を設けることがある。</p> <p><b>教科書</b> LUNA に毎回の授業レジュメを掲載し、使用する。</p> <p><b>参考文献</b> Michel Abadie, MINITEL STORY, les dessous d' un succes..., FAVRE, 1988 Claude Marchais, TELEMATIQUE SANS FRONTIERE, EYROLLES, 1989 大石泰彦、「フランスのマス・メディア法」、現代人文社、1999 年 中野幸紀、「サイバースペースにおけるサービス化の展開について」、鈴木多加史、西田稔編著「サービス・エコノミーの展開（第 4 章）」、御茶の水書房、2001 年 フランス外務省編、宝利桃子訳、「現代のフランス」、原書房、2005 年</p> <p><b>成績評価方法・基準</b> 定期試験に代わるレポート(Term paper to replace the final examination)/平常レポート(Ordinary paper)</p> <p><b>学生による授業評価の方法</b> 授業への出席状況、授業中小レポート及び期末レポートによって総合的に評価する。</p> <p><b>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連</b> 授業中実施</p> <p><b>準備学習等についての具体的な指示及び他の科目との関連</b> EUIJ 関西開講科目として他大学からの受講生の参加に配慮して進める。</p> <p><b>キーワード</b> EU、情報通信技術、産業、米欧比較、市民社会、マスコミ、技術開発、標準</p>
--

(f) Culture and Society Module/文化・社会科目群

EU 科目名 : Slavic Cultures / 開講大学での科目名 : スラヴ文化論			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学国際文化学部	小椋 彩	2 単位	前期
<p><b>授業のテーマと目標</b> スラヴ民族の多くが暮らす中東欧は、アメリカやアジアなどに比べると、日本人にとってはまだなじみ深いとはいえません。また、西欧と比べてもマイナーなイメージがあります。しかし、広大な領土を持つ東欧の大国ロシアは、実は日本のお隣にあり、両国は互いにさまざまな部分で影響を与えあっています。授業では、このスラヴの大国ロシアと、その西に位置する国ポーランドのそれぞれの歴史や文化や社会について、おもに映画を糸口に理解を深めていきます。「地域研究」であると同時に、「芸術鑑賞のしかた」についても考える授業です。【EUIJ 科目】</p> <p><b>授業の概要と計画</b> ロシアおよびポーランドの歴史や社会情勢は芸術のなかでどのように表象されているのか、映画を題材に検討します。ふたつの世界大戦、東欧革命、ホロコースト、スターリニズム、国家や女性といったテーマに注目し、これらが映画のなかでどう描かれているか見ていきます。同じ事象が時代によってまるで異なる（あるいはほぼ変わらない）描かれ方をしていることについて、また、両国の互いに対するイメージについても検討します。社会主義時代から現代ものまで、幅広い映画を紹介することを予定しています。</p> <p><b>成績評価方法と基準</b> 出席点（20%）とレポート（80%）で評価します。</p> <p><b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b></p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

「東欧革命」から 22 年、ソ連邦崩壊から 20 年を経たいまも、この地域は社会的激変にさらされ続けています。世界の政治や経済、国際関係に関心を持つ人にとって、この地域はますます重要になっていくことでしょう。授業では、この地域の優れた映画を取りあげ、そこに隠された様々なメッセージを読み解きます。東ヨーロッパの歴史や文化について理解を深めたい人の積極的な参加をお待ちしています。

**キーワード**

ロシア、ポーランド、ソ連、東欧、映画

EU 科目名 : Religion in Cultural Formation / 開講大学での科目名 : 宗教文化論

大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学国際文化学部	野谷 啓二	2 単位	後期

**授業のテーマと目標**

キリスト教は歴史的にその受容者の強力なアイデンティティを構成し、特徴的な文化を創造してきました。異宗教文化との間に、対立、武力衝突の原因をも作り出してきました。しかし他方では、異文化を統合する共通文化をも創造しました。つまり、文化的な実態としてのキリスト教は、民族のアイデンティティを構成する重要な要因であったと同時に、民族を超える普遍的な価値を持つ文化をも生み出したのです。本講義では、まずキリスト教とはどのような宗教なのかについてユダヤ教から考察し、中世の西洋キリスト教世界、さらに宗教改革を経て、プロテスタンティズムを基盤とする西洋近代社会文化の諸相を明らかにすることを目標とします。

[EUIJ 科目]

**授業の概要と計画**

1. イントロダクション 宗教と文化の関係
2. 古代社会 ヘレニズムとヘブライズム 旧約聖書の世界
3. 救済史
4. ユダヤ教とユダヤ民族
5. シナイ契約
6. イエスの登場
7. キリスト教会の成立
8. 中世 ヨーロッパの誕生
9. 修道院文化
10. 宗教改革 近代西欧社会
11. 近代社会とプロテスタンティズム
12. キリスト教と資本主義
13. 日本のキリスト教 キリスト教の受容と文化変容

その他

**成績評価方法と基準**

出席 (20%)、ブック・レポート (30%)、期末レポート (50%) の総合評価。

**履修上の注意 (関連科目情報等を含む)**

成績評価方法では出席が 20% となっていますが、欠席が 5 回以上になると自動的に放棄したと見なしますので注意して下さい。

**オフィスアワー・連絡先**

研究室 : E204

Email: notani[at]kobe-u.ac.jp

**学生へのメッセージ**

宗教が文化の形成にどのように関わっているか、個人と文化のアイデンティティ構成要素としての宗教に関心がある学生を歓迎します。

**教科書**

教科書は特に使用しません。講義資料をプリントで配布します。また適宜文献を紹介します。

**参考書・参考資料等**

参考書 : ノーマン・タナー著『教会会議の歴史』(教文館)、ノーマン・サイクス著『イングランド文化と宗教伝統: 近代文化形成の原動力となったキリスト教』(開文社)、野谷啓二著『イギリスのカトリック文芸復興: 体制文化批判者としてのカトリック知識人』(南窓社)

**授業における使用言語**

日本語

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

EU 科目名 : Introduction to International Relations / 開講大学での科目名 : 国際関係論			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
神戸大学国際文化学部	坂井 一成	2 単位	後期
<p><b>授業のテーマと目標</b> 国際関係を理解するための基本的枠組み（歴史の大枠や基礎的理論）と現代国際関係の主要課題を掘り下げ、さらに「文化」の視点から国際関係にアプローチする方法について理解を深める。 多文化の共生をめぐる問題は、国家内にとどまらず、広く国際社会に関わっている。国民あるいは国家を一つの文化的集団と捉えるならば、国際関係も地球という一つの社会における多文化共生のあり方を問う対象領域である。また、現代国際関係においては、国民国家だけでなく多様なアクターが登場している。こうした要素を含め、国境をこえて生起する多様な異文化コミュニケーションの場としての国際関係を、自分自身の問題としてリアルに認識できるようにしたい。 [EUIJ 科目]</p> <p><b>授業の概要と計画</b> 1. 国際関係論と異文化コミュニケーション 2. 国際関係の展開 3. 国際関係の基礎理論 4. 外交と国益：外交政策はどのように決定されるのか 5. 予防外交の意義と実践 6. 安全保障の変容 7. 地域統合の意義：EU 統合を中心に 8. EU における民族問題 9. グローバリゼーションの功罪：誰のためのグローバリゼーションか？ 10. 多文化共生を可能にする国際関係とは？ なお、ビデオを見て考察するなどの時間を適宜織り交ぜる。</p> <p><b>成績評価方法と基準</b> 授業時に数回課すコメントペーパー（出席状況と講義の理解の度合いをみる）（60%）、授業内容に関わるレポート（講義内容に即した応用力をみる）（40%）</p> <p><b>オフィスアワー・連絡先</b> 水曜 12:20-13:10 のほか随時（メールでもどうぞ） メールは kazu[at]harbor.kobe-u.ac.jp</p> <p><b>学生へのメッセージ</b> ヨーロッパの民族対立と共生 / 坂井一成：芦書房，2008，ISBN:</p> <p><b>教科書</b> 国際安全保障論 / 吉川元：有斐閣，2007，ISBN: グローバリゼーション国際関係論 / 坂井一成（編）：芦書房，2006，ISBN: ヨーロッパ統合の国際関係論 [第 2 版] / 坂井一成（編）：芦書房，2007，ISBN:</p> <p><b>授業における使用言語</b> 日本語。ただしコメントペーパーや期末レポートは英語・フランス語でも構わない。</p> <p><b>キーワード</b> 国際関係、外交、文化、ヨーロッパ、地域統合、民族問題、グローバリゼーション</p>			

EU 科目名 : European Urban Design / 開講大学での科目名 : ランドスケープ・デザイン			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学総合政策学部	加藤 晃規	2 単位	秋学期
<p><b>講義目的</b> 都市や地域の景観は建物、広告物、道路、公園緑地、河川、土木構造物、農地、山地、そして人の活動など多様な要素で構成されている。これらを相互に関連し合うものとして捉え、そこに生まれる公共的空間の見え方や把握のされ方、言い換えればランドスケープの現れ方について理解を深める。その上で、都市や地域をデザインする主体的な立場から、個性と魅力があるランドスケープデザインの方策やそれを支える制度的仕組みについて解説する。</p> <p><b>各回ごとの授業内容</b> (1) ランドスケープ・デザインの目的と役割 (3 回) 1-1. 景観論序—風土、風景、景観の概念、景観類型（自然的景観、都市的景観、人文的景観）。 1-2. 都市デザインの系譜と事例</p>			

Undergraduate Certificate プログラム  
2011 年シラバス

<p>1-3. 都市イメージと知覚環境 (2) 公共的空間の景観デザイン (6回) 2-1. 都市美の創造と美しい道路景観 2-2. 都市広場のデザイン 2-3. 緑のデザイン・その1 2-4. 緑のデザイン・その2 2-5. まち並みのデザインー伝統的建造物群保存地区など 2-6. 水辺のデザインー日韓比較など (3) 景観整備手法 (5回) 3-1. 景観法のねらいと仕組み 3-2. 景観条例と景観まちづくり。 3-3. 都市景観の整備ー神戸市の事例 3-4. 地域景観の整備ー食料・農業・農村基本計画、田園地域の土地利用 3-5. 風景計画 (4) 平常試験ーまとめとレポート (1回)</p> <p><b>授業方法</b> パワーポイントスライドを使用する講義形式で、適宜、プリントを配布する。適切な事例やシンポジウムがあればその調査レポートや参加レポートの作成を通して学ぶ事もある。また、ゲストスピーカーを招聘する場合もある。</p> <p><b>教科書</b> 鳴海邦碩、田端修、榊原和彦 (編) 『都市デザインの手法』 (学芸出版社、1998)。</p> <p><b>参考文献</b> 加藤晃規『南欧の広場』 (プロセスアーキテクチャー、1990)。芦原義信『街並の美学』 (岩波書店、1983)。ケヴィン・リンチ『都市のイメージ』 (岩波書店、1968)。日本建築学会編『景観まちづくり』 (丸善、2005)。西村幸夫+町並研究会『都市の風景計画』 (学芸出版社、2000)。武田ほか編著『ランドスケープデザインの歴史』 (学芸出版社、2010)。</p> <p><b>成績評価方法・基準</b> 定期試験 (Final examination)/平常レポート (Ordinary paper)/その他 (others) 定期試験、平常レポート、講義欠席回数などにより総合的に評価する。</p> <p><b>学生による授業評価の方法</b> 全学統一方式の様式による授業評価。</p> <p><b>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連</b> 都市政策や都市・農村計画の履修が望ましい。</p> <p><b>キーワード</b> 風土、風景、景観類型、知覚環境、都市美、自然美、都市デザイン、景観整備、街路、広場、緑地、水辺、歴史的街並み、景観法、景観条例、景観まちづくり、田園地域、食料・農業・農村基本計画、庭園設計。</p>
--

EU 科目名 : History of European Thought / 開講大学での科目名 : ヨーロッパ思想史			
大学・学部	担当教員	単位数	開講区分
関西学院大学総合政策学部	鎌田 康男	2 単位	秋学期
<p><b>副題</b> 現代人の思考行動様式はどのようにして生まれたのか</p> <p><b>講義目的</b> フランス革命 (1799~) は政治的新体制を打ち立てた。フランス人権宣言は、近代民主主義の基礎となった。同じ時期イギリスでは産業革命が進行し、経済的新体制が形成された。ドイツではカント哲学とドイツ観念論に代表される思想文化的新体制が開花した。カント哲学の世界平和論は、後の国際連盟の基本理念となった。それから約 100 年の間に、ヨーロッパ世界はこれらの成果を相互に共有しつつ、世界的繁栄の基礎を作る。皮肉なことにこの繁栄は同時に、社会的にも国際的にも、争いと支配という怪物を目覚めさせてしまう。近代はコミュニティ崩壊、民族・国際紛争 (戦争)、自然破壊の時代でもあった。ヨーロッパ史上でもっとも急激で濃厚な変化に富んだ時代の人々の思想の変化を歴史的にたどり、現代人の思考行動様式の直接のルーツを見きわめることが本講義の目的である。</p> <p><b>各回ごとの授業内容</b> 第 1-2 回 : ヨーロッパ思想史とは何か — ヨーロッパ近代初頭に至る哲学思想史のまとめ、講義の説明 第 3-4 回 : 人が世界を作る — カント哲学 (カント認識論、カント実践哲学の社会的反響と論争、新たな流れ) 第 5-6 回 : 自由と横暴 — ドイツ観念論 : フィヒテ、シェリング、ヘーゲル</p>			

## Undergraduate Certificate プログラム 2011 年シラバス

第 7-8 回：エゴイズムへの警告と相反する解決案：ショーペンハウアー、マルクス  
第 9-10 回：共生の哲学の新局面 — 関係性を物語る：キルケゴール、ニーチェ  
第 11-12 回：相対主義と効用主義をめぐる 19 世紀末の論争：進化論、功利主義、新カント派、現象学  
第 13-14 回：孤独と共生 — ブーバー、ハイデッガー、サルトル  
第 15 回：まとめ

### 授業方法

講義形式で行う。時間の許す限り知的コミュニケーションの実習としてグループワークを行う。

### 参考文献

『哲学の歴史 7 理性の劇場』責任編集加藤尚武（中央公論新社）、『哲学の歴史 9 反哲学と世紀末』責任編集須藤訓任（中央公論新社）

### 成績評価方法・基準

定期試験に代わるリポート(Term paper to replace the final examination)/平常リポート(Ordinary paper)/その他(others)

期末レポートに、平常点（ミニレポート、グループワーク）を加味して評価する。

### 準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連

「哲学概論」（春学期、細見）が西洋古代から 18 世紀ごろまでの哲学思想史を扱うのを受けて、「ヨーロッパ思想史」では 18 世紀～20 世紀初頭の哲学思想史を担当する。それ以降の哲学思想については、テーマを公共性と共生にしぼりながら「公共哲学」（春学期、鎌田・細見）に継承される。このほか、東洋の思想については「アジア思想史」（秋学期、河崎）、東洋と西洋の宗教思想については「宗教思想論」（春学期、鎌田）が開講される。

その他の関連科目：「環境倫理」（春学期、紀平）、「倫理学」（秋学期、細見）。

### キーワード

哲学/啓蒙主義/フランス革命/ドイツ観念論/近代市民社会/19 世紀/20 世紀/自由/権力/個人/社会/孤独/共同性

## (g) Incoming Visitors Programme/招聘講師による集中講義

開講予定が決まり次第、お知らせします。